

榎町遺跡（1・2次調査）

福岡県八女市大字山内所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第74集

2006

八女市教育委員会

序

今回調査を実施した遺跡は県道八女・香春線の沿線にあり、交通のアクセスが良いため最近になって開発が急速に進み、道路の拡張、大型店舗や倉庫等の建設が相次いで行われています。これに伴ってこの地区における埋蔵文化財の発掘調査も増加し、貴重な文化財の発見も多数に上っているところです。今回の調査は福岡八女農業協同組合が計画した葬祭場の建設に伴うもので施設建設前に発掘調査を実施したものです。発掘調査の実施にあたりまして福岡八女協同組合 代表理事組合長 樋口和典様はじめ、関係各位に文化財保護のため終始ご協力いただきました。記してお礼申し上げます。

平成18年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例 言

- 1 本書は八女市教育委員会が福岡八女農業協同組合 代表理事組合長 樋口和典の委託を受けて実施した福岡県八女市大字山内字榎町所在、榎町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 平成16年度には榎町遺跡の発掘調査を実施した。引き続いて平成17年度は榎町遺跡の整理作業と榎町遺跡(2次調査)の発掘調査・整理作業を行い、八女市教育委員会が主体となって報告書を作成した。
- 3 遺構の実測は、基本的には国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準としている。
- 4 遺構の実測は参加者で行い、写真は榎町遺跡1・2次調査を赤崎が撮影した。
- 5 出土した遺物については、岩戸山歴史資料館で整理を行い、保管している。
- 6 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

本 文 目 次

榎町遺跡(1次・2次調査)

1. はじめに	1
2. 位置と環境	3
3. 発掘調査の概要と経過	5
4. 遺構と遺物	6
5. まとめ	44

挿 図 目 次

榎町遺跡 1 次調査

- | | | | |
|---------|--------------------------------------|---------|----------------------------------|
| 第 1 図 | 榎町遺跡 (1 次・2 次)
周辺遺跡分布図 [1/25.000] | 第 3 8 図 | 竪穴住居(SB13)実測図 [1/60] |
| 第 2 図 | 榎町遺跡 (1 次・2 次)
調査位置図 [1/2.500] | 第 3 9 図 | 竪穴住居(SB13)竈実測図 [1/40] |
| 第 3 図 | 榎町遺跡 (1 次・2 次)
遺構配置図 [1/400] | 第 4 0 図 | 竪穴住居(SB13) 出土土器・
石製品実測図 [1/3] |
| 第 4 図 | 竪穴住居(SB01)実測図 [1/60] | 第 4 1 図 | 竪穴住居(SB14)実測図 [1/60] |
| 第 5 図 | 竪穴住居(SB01)竈実測図 [1/40] | 第 4 2 図 | 竪穴住居(SB14) 出土土器実測図 [1/3] |
| 第 6 図 | 竪穴住居(SB02)実測図 [1/60] | 第 4 3 図 | 竪穴住居(SB15)実測図 [1/60] |
| 第 7 図 | 竪穴住居(SB02)竈実測図 [1/40] | 第 4 4 図 | 竪穴住居(SB15)竈実測図 [1/40] |
| 第 8 図 | 竪穴住居(SB02)出土土器実測図 [1/3] | 第 4 5 図 | 竪穴住居(SB15)出土土器・
石製品実測図 [1/3] |
| 第 9 図 | 竪穴住居(SB03)実測図 [1/60] | 第 4 6 図 | 竪穴住居(SB16)実測図 [1/60] |
| 第 1 0 図 | 竪穴住居(SB03)竈実測図 [1/40] | 第 4 7 図 | 竪穴住居(SB16)出土土器実測図 [1/3] |
| 第 1 1 図 | 竪穴住居(SB03)出土土器実測図 [1/3] | 第 4 8 図 | 竪穴住居(SB17)実測図 [1/60] |
| 第 1 2 図 | 竪穴住居(SB04)実測図 [1/60] | 第 4 9 図 | 竪穴住居(SB17)竈実測図 [1/40] |
| 第 1 3 図 | 竪穴住居(SB04)竈実測図 [1/40] | 第 5 0 図 | 竪穴住居(SB17)出土土器実測図 [1/3] |
| 第 1 4 図 | 竪穴住居(SB04)出土土器実測図 [1/3] | 第 5 1 図 | 竪穴住居(SB20)実測図 [1/60] |
| 第 1 5 図 | 竪穴住居(SB05)実測図 [1/60] | 第 5 2 図 | 竪穴住居(SB20)出土土器実測図 [1/3] |
| 第 1 6 図 | 竪穴住居(SB05)竈実測図 [1/40] | 第 5 3 図 | 竪穴住居(SB21)実測図 [1/60] |
| 第 1 7 図 | 竪穴住居(SB05)出土土器実測図 [1/3] | 第 5 4 図 | 竪穴住居(SB21)出土土器実測図 [1/3] |
| 第 1 8 図 | 竪穴住居(SB06)実測図 [1/60] | 第 5 5 図 | 竪穴住居(SB21)出土土製品実測図 [1/2] |
| 第 1 9 図 | 竪穴住居(SB06)竈実測図 [1/40] | 第 5 6 図 | 掘立柱建物(SB18)実測図 [1/60] |
| 第 2 0 図 | 竪穴住居(SB06)出土土器実測図 [1/3] | 第 5 7 図 | 掘立柱建物(SB19)実測図 [1/60] |
| 第 2 1 図 | 竪穴住居(SB07)実測図 [1/60] | 第 5 8 図 | 掘立柱建物(SB19)出土土器実測図 [1/60] |
| 第 2 2 図 | 竪穴住居(SB07)竈実測図 [1/40] | 第 5 9 図 | 土壙(SK01) 実測図 [1/60] |
| 第 2 3 図 | 竪穴住居(SB07)出土土器実測図 [1/3] | 第 6 0 図 | 土壙(SK02) 実測図 [1/60] |
| 第 2 4 図 | 竪穴住居(SB08)実測図 [1/60] | 第 6 1 図 | 土壙(SK03) 実測図 [1/60] |
| 第 2 5 図 | 竪穴住居(SB08)竈実測図 [1/40] | 第 6 2 図 | 土壙(SK03) 出土土器実測図 [1/3] |
| 第 2 6 図 | 竪穴住居(SB08)出土土器・
石製品実測図 [1/3] | 第 6 3 図 | 土壙(SK04) 実測図 [1/60] |
| 第 2 7 図 | 竪穴住居(SB09)実測図 [1/60] | 第 6 4 図 | 土壙(SK05) 実測図 [1/60] |
| 第 2 8 図 | 竪穴住居(SB09)出土土器実測図 [1/3] | 第 6 5 図 | 土壙(SK05) 出土土器実測図 [1/3] |
| 第 2 9 図 | 竪穴住居(SB10)実測図 [1/60] | 第 6 6 図 | 土壙(SK06) 実測図 [1/60] |
| 第 3 0 図 | 竪穴住居(SB10)竈実測図 [1/40] | 第 6 7 図 | 土壙(SK06) 出土土器実測図 [1/3] |
| 第 3 1 図 | 竪穴住居(SB10)出土土器実測図 [1/3] | 第 6 8 図 | 不明遺構(SX01) 実測図 [1/60] |
| 第 3 2 図 | 竪穴住居(SB11)実測図 [1/60] | 第 6 9 図 | 不明遺構(SX02) 実測図 [1/60] |
| 第 3 3 図 | 竪穴住居(SB11)竈実測図 [1/40] | 第 7 0 図 | 不明遺構(SX03) 実測図 [1/60] |
| 第 3 4 図 | 竪穴住居(SB11)出土土器実測図 [1/3] | 第 7 1 図 | 不明遺構(SX04) 実測図 [1/60] |
| 第 3 5 図 | 竪穴住居(SB12)実測図 [1/60] | 第 7 2 図 | 溝(SD01) 出土土器実測図 [1/3] |
| 第 3 6 図 | 竪穴住居(SB12)竈実測図 [1/40] | 第 7 3 図 | 溝(SD02) 出土土器実測図 [1/3] |
| 第 3 7 図 | 竪穴住居(SB12) 出土土器実測図 [1/3] | 第 7 4 図 | 溝(SD03) 出土土器実測図 [1/3] |
| | | 第 7 5 図 | 溝(SD04) 出土土器実測図 [1/3] |
| | | 第 7 6 図 | 溝(SD05) 出土土器実測図 [1/3] |

第 7 7 図 溝(SD01・02・03・04)土層図 [1/40]
第 7 8 図 Pit(11・20・31) 出土土器実測図 [1/3]

第 7 9 図 表採出土土製品実測図 [1/2]

榎町遺跡 2 次調査

第 8 0 図 竪穴住居(SB22・23・24・25・26・27・28・29)土壇(SK07・08・09) 実測図 [1/60]
第 8 1 図 竪穴住居(SB22・23・24・25・27・28) 出土土器実測図 [1/3]
第 8 2 図 溝(SD10) 不明遺構(SX05) 包含層出土土器実測図 [1/3]

表 目 次

榎町遺跡 1 次調査

表 1	竪穴住居(SB02)出土土器観察表	表 1 8	竪穴住居(SB16)出土土器観察表
表 2	竪穴住居(SB03)出土土器観察表	表 1 9	竪穴住居(SB17)出土土器観察表
表 3	竪穴住居(SB04)出土土器観察表	表 2 0	竪穴住居(SB20)出土土器観察表
表 4	竪穴住居(SB05)出土土器観察表	表 2 1	竪穴住居(SB21)出土土器観察表
表 5	竪穴住居(SB06)出土土器観察表	表 2 2	竪穴住居(SB21)出土土製品観察表
第 6	竪穴住居(SB07)出土土器観察表	表 2 3	掘立柱建物(SB19)出土土器観察表
表 7	竪穴住居(SB08)出土土器観察表	表 2 4	土壇(SK03)出土土器観察表
表 8	竪穴住居(SB08)出土土製品観察表	表 2 5	土壇(SK05)出土土器観察表
表 9	竪穴住居(SB09)出土土器観察表	表 2 6	土壇(SK06)出土土器観察表
表 1 0	竪穴住居(SB10)出土土器観察表	表 2 7	溝(SD01)出土土器観察表
表 1 1	竪穴住居(SB11)出土土器観察表	表 2 8	溝(SD02)出土土器観察表
表 1 2	竪穴住居(SB12)出土土器観察表	表 2 9	溝(SD03)出土土器観察表
表 1 3	竪穴住居(SB13)出土土器観察表	表 3 0	溝(SD04)出土土器観察表
表 1 4	竪穴住居(SB13)出土土器観察表	表 3 1	溝(SD05)出土土器観察表
表 1 5	竪穴住居(SB14)出土土器観察表	表 3 2	pit出土土器観察表
表 1 6	竪穴住居(SB15)出土土器観察表	表 3 3	表採出土土製品観察表
表 1 7	竪穴住居(SB15)出土土器観察表		

榎町遺跡 2 次調査

表 3 4	竪穴住居(SB22)出土土器観察表	表 4 0	溝(SD10)出土土器観察表
表 3 5	竪穴住居(SB23)出土土器観察表	表 4 1	不明遺構(SX05)出土土器観察表
表 3 6	竪穴住居(SB24)出土土器観察表	表 4 2	包含層出土土器観察表
表 3 7	竪穴住居(SB25)出土土器観察表	表 4 3	榎町遺跡・高野町遺跡竪穴住居 規模比較表
表 3 8	竪穴住居(SB27)出土土器観察表		
表 3 9	竪穴住居(SB28)出土土器観察表		

図 版 目 次

榎町遺跡 1 次調査

- 図版 1 (1) 榎町遺跡 1 次調査発掘前風景 (北より)
(2) 榎町遺跡 1 次調査発掘前風景 (南東より)
- 図版 2 (1) 榎町遺跡 1 次調査発掘後全景 (南より)
(2) 榎町遺跡 1 次調査発掘後全景 (北より)
- 図版 3 (1) 榎町遺跡 1 次調査全景 (上空より)
- 図版 4 (1) SB01 (2) SB02 (3) SB03 (4) SB04
- 図版 5 (1) SB05 (2) SB06 (3) SB07 (4) SB08
- 図版 6 (1) SB09 (2) SB10 (3) SB11 (4) SB12
- 図版 7 (1) SB13 (2) SB14 (3) SB15 (4) SB16
- 図版 8 (1) SB17 (2) SB18 (3) SB19
- 図版 9 (1) SK01 (2) SK02 (3) SK03 (4) SK04
- 図版 10 (1) SK05 (2) SK06 (3) 全景 (東より) (4) 全景 (西より)
- 図版 11 (1) SD01 (2) SD02 (3) SD03 (4) SD04

榎町遺跡 2 次調査

- 図版 12 (1) 榎町遺跡 2 次調査発掘前風景 (北より)
(2) 榎町遺跡 2 次調査発掘前風景 (南東より)
- 図版 13 (1) 榎町遺跡 2 次調査発掘後東西トレンチ (東より)
(2) 榎町遺跡 2 次調査発掘後東西トレンチ (西より)
- 図版 14 (1) 榎町遺跡 2 次調査発掘後南北トレンチ (南より)
(2) 榎町遺跡 2 次調査発掘後南北トレンチ全景 (北より)
- 図版 15 (1) SB22 (2) SB23 (3) SB24 (4) SB25
- 図版 16 (1) SB26 (2) SB27 (3) SB28 (4) SB29、SD08
- 図版 17 (1) SK07 (2) SK08 (3) SK09 (4) SX05、SD09

1. はじめに

榎町遺跡は福岡県八女市大字山内字榎町511番地ほか3筆に所在する。

調査の発端は、福岡八女農業協同組合が、当該地3,568㎡に葬祭場を建設する計画がなされたことによる。平成16年2月に行った試掘調査によって、古墳時代を中心とした集落が発見された。このため建物の建設に先だって発掘調査が必要の旨の回答を行った。その後、両者が協議を重ねた結果、建物部分以外は1.5m以上の盛土がなされる事から、発掘調査は建物によって掘削される約1,700㎡のみを実施する事とし、平成16年4月1日付けで福岡八女農業協同組合 代表理事組合長 樋口和典氏より発掘届が提出された。発掘届の提出により平成16年6月19日付けで「埋蔵文化財発掘委託契約書」及び平成17年度で実施する「埋蔵文化財整理調査及び報告書作成委託契約」の協定書を締結した。

平成17年度には現葬祭場の東側に駐車場を増設することになり、擁壁の建設によって掘削される部分、大字山内字榎町369番地ほか4筆、約200㎡の発掘調査を実施する事になった。このため、榎町遺跡2次調査として、平成17年12月16日付けで福岡八女農業協同組合 代表理事組合長 樋口和典氏より発掘届が提出された。発掘届の提出により平成18年1月31日付けで「埋蔵文化財発掘委託契約書」を締結した。

1次調査は平成16年8月2日に開始、猛暑と相次ぐ台風の襲来という悪条件での調査となったが、平成16年11月2日発掘調査は終了した。引き続いて平成17年度には平成17年4月5日付けで「埋蔵文化財整理調査及び報告書作成委託契約書」を締結し、整理と報告書作成を実施した。

2次調査は平成18年2月1日に開始、厳寒期の調査となったが、平成18年3月20日発掘調査は終了した。

平成16年度及び平成17年度の調査関係者は次のとおりである。

平成16年度

福岡八女農業協同組合

代表理事組合長 樋口和典

八女市教育委員会

教 育 長	中 島 清 志
生涯学習課長	諸 富 和 生
生涯学習課長補佐	飯 田 せつ子
文化財係長	赤 崎 敏 男 (調査担当)
同 係 員	中 川 寿賀子
同 係 員	大 塚 恵 治
同 嘱 託	檀 佳 克 (1月まで)

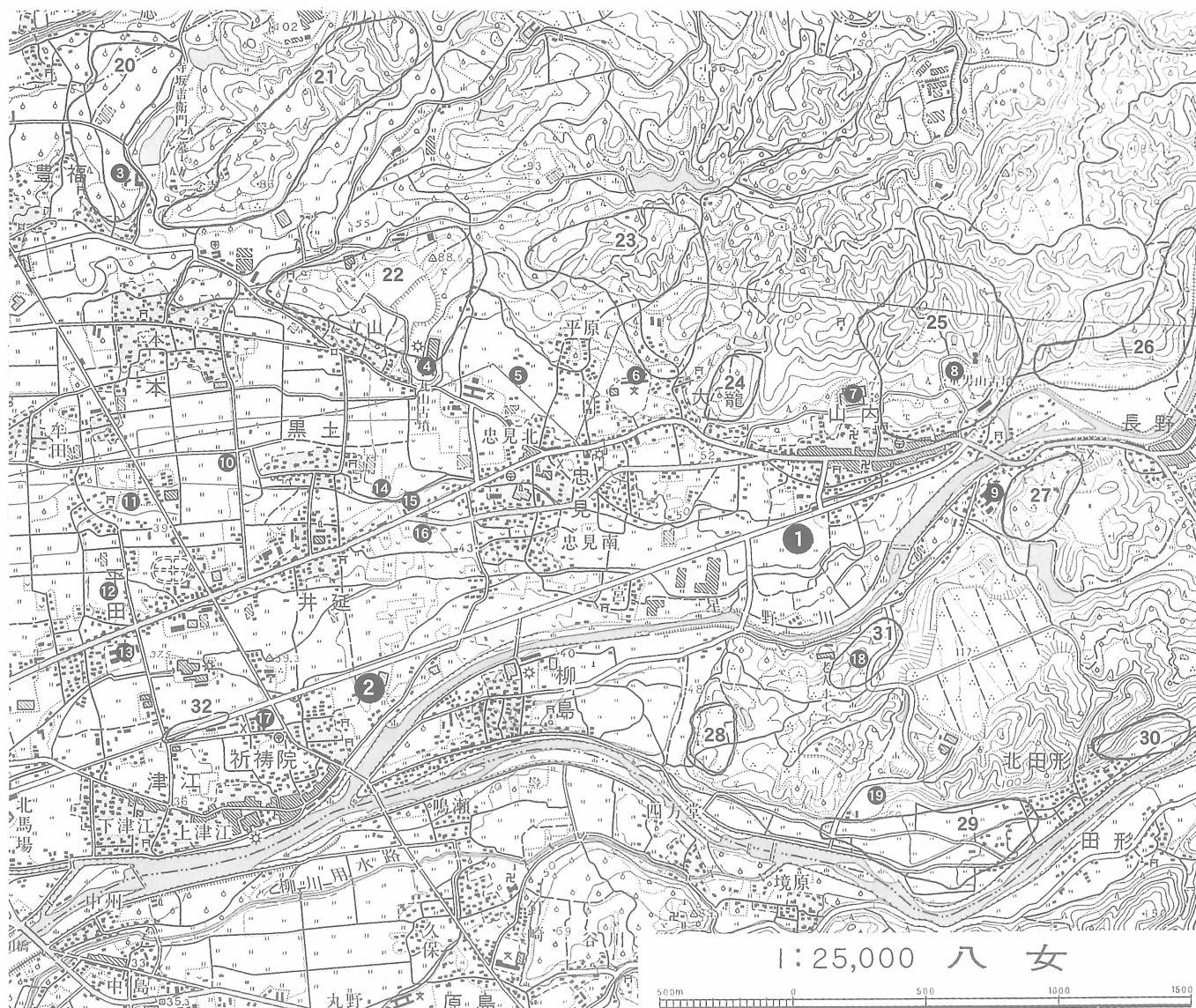
平成17年度

福岡八女農業協同組合

代表理事組合長 樋口和典

八女市教育委員会

教 育 長	中 島 清 志
生涯学習課長	下 川 文比古
生涯学習課長補佐	古 庄 龍 美
文化財係長	赤 崎 敏 男
同 係 員	中 川 寿賀子
同 係 員	大 塚 恵 治



- | | | | |
|------------------|--------------|-----------------|---------------|
| 1.榎町遺跡 1次調査・2次調査 | 2.高野町遺跡 2次調査 | 3.釘崎 1号墳 | 4.丸山古墳 |
| 5.西小牟田遺跡 | 6.見崎中学校校庭遺跡 | 8.童男山古墳 (1号墳) | 9.川崎小学校遺跡 |
| 10.石佛遺跡 | 11.尺取遺跡 | 13.後ノ江遺跡 | 14.黒土・新替遺跡 |
| 15.風流松遺跡 | 16.明洲遺跡 | 18.長浦横穴墓群 | 19.城の谷古墳 |
| 20.豊福遺跡群 | 21.釘崎古墳群 | 23.平原 1～27号墳 | 24.日迫山 1～19号墳 |
| 25.童男山 2～27号墳 | 26.長野 1～15号墳 | 27.帰路女喜 1号墳～6号墳 | 29.北田形遺跡群 |
| 30.北田形 1号～7号墳 | 31.柳島 1～5号墳 | 28.柳島 6号～8号 | |
| | 32.津江、八升町遺跡 | | |

第1図 榎町遺跡 (1次・2次) 周辺遺跡分布図 [1/25,000]

2. 位置と環境

榎町遺跡は、星野川の右岸に形成された、ほぼ東西にのびる標高約50m前後の自然堤防上にあり、榎町遺跡の約1.5km西方には、高野町遺跡が位置している。榎町遺跡は県道八女―香春線に隣接し、北側には並行して国道442号線が東西に走っている。国・県道の両側には最近店舗や工場等が多く建設されており、これら開発に伴って埋蔵文化財の発掘調査も増加している。また、平成6年度から12年度まで国道3号線から東側の地区約210㍍で施工された県営担い手育成基盤整備事業・県営かんがい排水事業に伴っても数多くの遺跡が発見されている。

周辺の遺跡を概観すると、弥生時代中期の遺跡として高野町遺跡で中期前半の竪穴住居が、高島遺跡1次から4次調査で中期前半から後半の竪穴住居、溝、土壇、旧河川が発見され、多量の遺物が出土している。白石遺跡では後期の溝と整地層、八升町遺跡・津ノ江遺跡では後期の集落と石棺を中心とした墓地が発見されている。

国道442号線の北側一帯からは、八女東部地区圃場整備事業に伴う発掘調査で、弥生時代から古墳時代、歴史時代の遺跡が数多く発見され、特に平成6年度の調査で平田・六反田遺跡、北ノ前遺跡、野内遺跡から弥生時代の竪穴住居群、掘立柱建物群、墳墓群、古墳時代の豪族居館、竪穴住居群が発見された。さらに、平成7年度には北側500mの西原遺跡から甕棺墓9基と弥生時代、古墳時代の竪穴住居が発見され、平成8年度には西原遺跡第2次調査で弥生時代の甕棺墓74基、古墳時代の方形周溝墓3基、弥生時代から古墳時代の竪穴住居66軒が発見されている。

遺跡の北側には八女丘陵が東西に連なり、丘陵上には国指定史跡の八女古墳群（岩戸山古墳・乗場古墳・善蔵塚古墳・丸山塚古墳・茶臼塚古墳・丸山塚古墳）をはじめ、鶴見山古墳、釘崎古墳群などの前方後円墳群、近くには立山山古墳群（39基）、日迫山古墳群（19基）、平原古墳群（27基）、東館古墳群（9基）、童男山古墳群（27基）が存在している。星野川の対岸には柳島古墳群（12基）、長浦横穴墓群（2基）が存在している。古墳時代後期の集落として、高野町遺跡から46軒の竪穴住居、掘立柱建物4棟が発見され、その多くが北側に竈が付属している。また、同じ矢部川流域の淵ノ上遺跡から23軒、南中学校校庭遺跡からも3次にわたる調査で竪穴住居28軒、掘立柱建物2棟が発見されており、星野川から矢部川流域の自然堤防上に、集落が広がっている。



第2図 榎町遺跡（1次・2次）調査位置図 [1/2,500]

3. 発掘調査の概要と経過

1次調査は、3, 568 m²の敷地部分の内、建物が建築される敷地の南側約1, 700 m²を対象に実施した。遺構面までの土をバックホーで除去した後、遺構を検出し掘り下げを行った。しかし、調査を8月1日に開始したため、猛暑と2度の台風襲来による冠水という悪条件を繰り返しながら、11月10日に現地での発掘調査を終了した。調査の結果、調査地区のほぼ全体から、古墳時代の竪穴住居19棟、掘立柱建物2棟、土壇6基、溝5条、不明遺構4基が検出された。

2次調査は、3, 624 m²の敷地部分の内、擁壁の建設によって掘削される約200 m²を対象に実施した。遺構面までの土をバックホーで除去した後、遺構を検出し掘り下げを行った。調査は2月1日に開始し、3月20日に現地での発掘調査を終了した。幅2 mという限られた部分での調査であったが、調査地区のほぼ全体から、古墳時代の竪穴住居8棟、土壇3基、溝5条、不明遺構1基が検出された。

1. 調査経過

1次調査

平成16年	8月 1日	器材搬入・基準点確認
	8月 2日	本日よりバックホーを入れ調査を開始する。
	8月 9日	本日より作業員を増員、散水しながら遺構を検出する。竈を持つ古墳時代の竪穴住居が中心の遺跡と判明。
	8月11日	竪穴住居の掘り下げを開始、大半の住居が北側に竈を持つことが判る。
	8月23日	SB01, 02, 04, SK01の掘り下げを続ける。1/100の配置図を作成する。
	8月27日	SB05, 06, 08, 09の掘り下げを続ける。
	9月 6日	SB05, 07, 10の掘り下げを続ける。
	9月14日	SB07, 11, 12の掘り下げを続ける。SB07は30 cm以上の深さがある。
	9月15日	前夜の雨のためね竪穴住居は冠水、Pitのみ掘り下げる。
	9月30日	前々日の台風21号の影響で冠水状態。水揚げ後、SD, SB12, 13の掘り下げを続ける。
	10月 1日	SB02完了。SD01, 02の掘り下げを続ける。基準点の移動し、現場内に設定する。
	10月12日	SB12, 13, SK02の写真撮影。
	10月13日	SB15, 17, SD02, 03の掘り下げを続ける。平面図、レベル記入開始。
	10月22日	19日以来、台風の影響で冠水状態。排水を続けSB15, 16の掘り下げを続ける。
	10月29日	SB15, 16, 17, SK06写真撮影。本日でほぼ掘削は完了する。
	11月 2日	午前中、遺跡全体の空中写真撮影を行う。午後、竈を中心として実測と写真撮影。
	11月10日	図面点検、機材撤収

2次調査

平成18年	2月 1日	本日よりバックホーを入れ調査を開始する。
	2月 2日	本日より作業員を入れ、遺構を検出する。古墳時代の竪穴住居、溝と判明、竪穴住居の掘り下げを開始。
	2月 8日	SB29, SD08の掘り下げを続ける。1/100の平面図作成開始する。
	2月13日	SB27, SD06の掘り下げを続ける。
	2月20日	SB24, 25, 28の掘り下げを続ける。
	2月21日	SB24-29, SD06-09写真撮影。
	2月24日	SB22, 23, SD10掘り下げを続ける。
	2月27日	SB22, 23写真撮影。撮影後、実測開始する。
	3月 1日	1/20の実測を続ける。
	3月 3日	本日でほぼ実測完了。
	3月20日	基準点測量終了後、埋め戻しを行い終了する。

4. 遺構と遺物

1 次調査

1. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構はまったく発見されなかったが、竪穴住居、土壇、溝、表土中より古墳時代の遺物に混じって中期の丹塗り土器片、黒曜石片、サヌカイト片が出土している。

2. 古墳時代の遺構と遺物

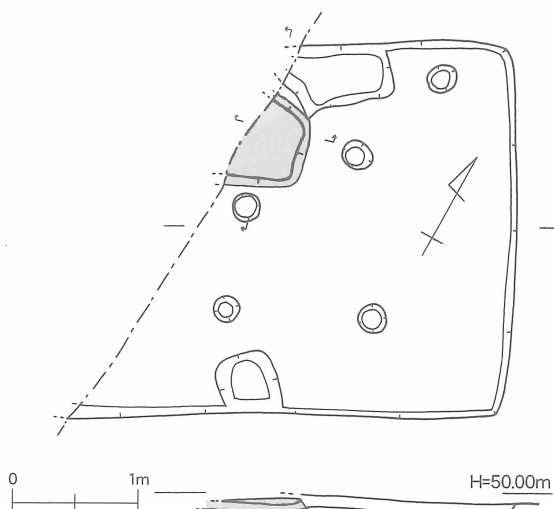
調査の結果、調査地区のほぼ全体が削平されているが、北側ほど遺構の残りが良く、南側ほど削平が大きいいためか遺構の残り具合は悪く、砂礫層が表れている部分も有る。地山の粘土層や砂礫を切り込んで、古墳時代の竪穴住居19棟、掘立柱建物2棟、土壇6基、溝5条、不明遺構4基が検出されたが、調査区中央に東西約30m、南北約10mに遺構のほとんどない部分が存在している。

竪穴住居 (SB)

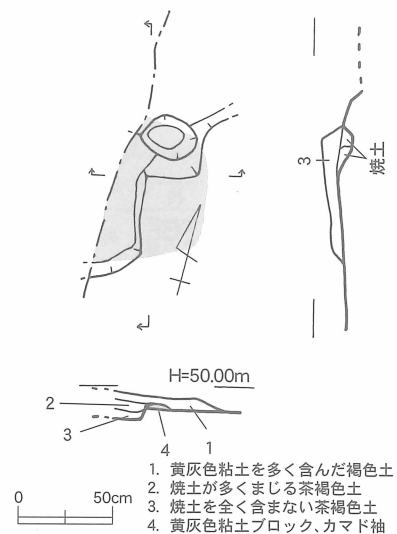
竪穴住居は調査区のほぼ全体から、方形の竪穴住居19軒が発見されているが、その多くは小型の竪穴住居が多く、壁に竈がつくられたものが多い。

SB01 (第4・5図・図版4)

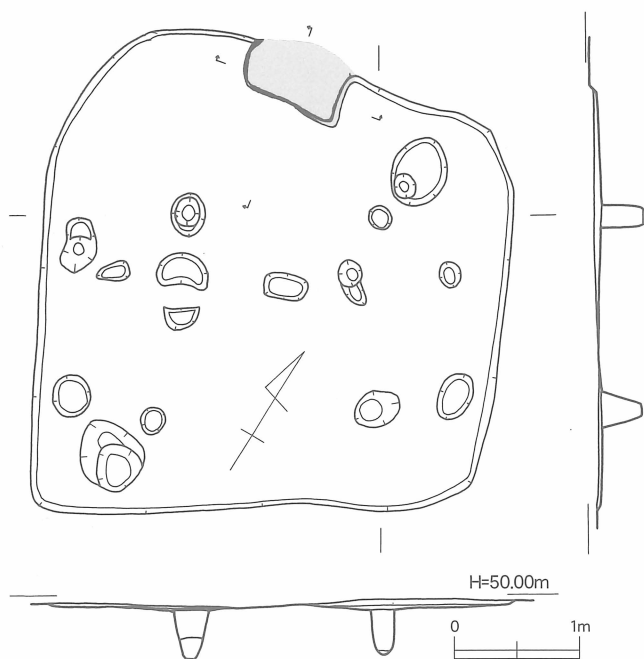
西側の一部は調査区外のため不明であるが、南北の長さ3.0m、東西の長さ3.4+ α mと方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は10cm程度残っている。床面はほぼ平坦で小ピットが存在するがいずれも10-20cmと浅く、柱穴とは考えられない。北壁に竈がつくられており、全体の構造は不明であるがわずかに右袖が残っており、竈内部には焼土を多く含んだ茶褐色土がある。



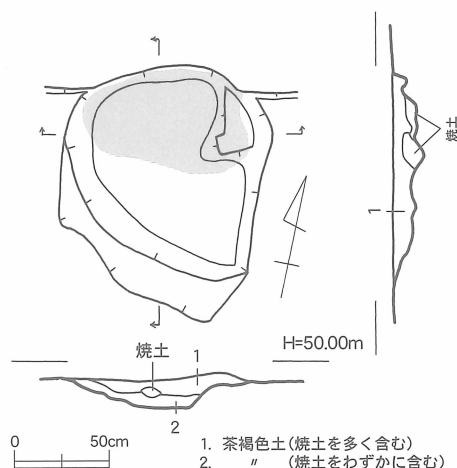
第4図 竪穴住居(SB01)実測図 [1/60]



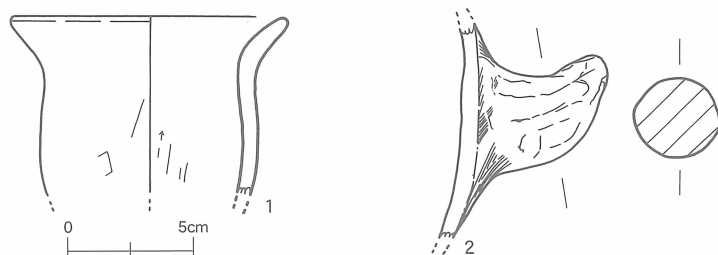
第5図 竪穴住居(SB01)竈実測図 [1/40]



第6図 竪穴住居(SB02)実測図 [1/60]



第7図 竪穴住居(SB02)竈実測図 [1/40]



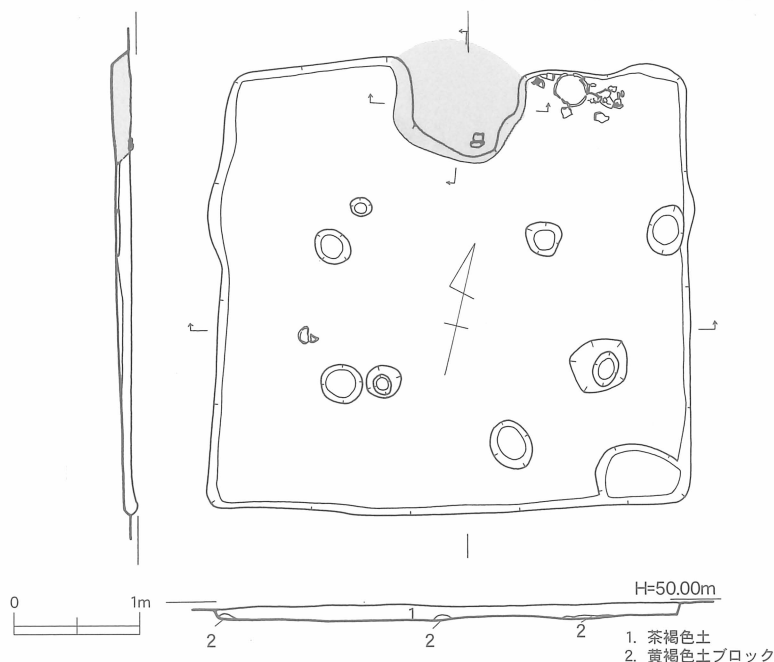
第8図 竪穴住居(SB02)出土土器実測図 [1/3]

S B 0 2 (第6・7・8図・表1・図版4)

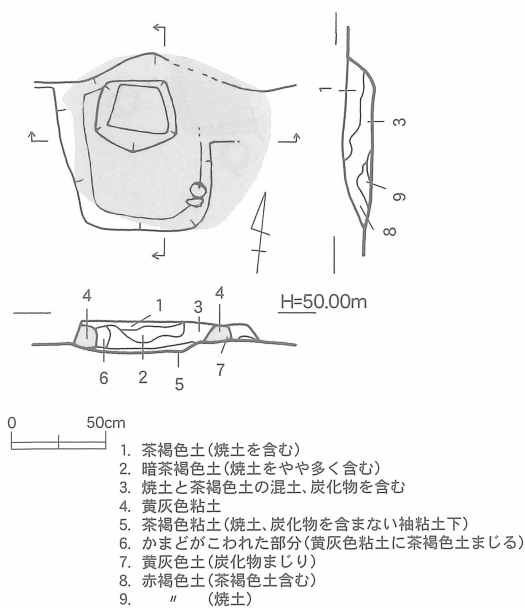
調査区の西側にあり、南北の長さ3.7m、東西の長さ3.7mと方形の竪穴住居で、床面はほぼ平坦で、全体に床面まで壁は0-5cm程度残っている。ピットもいくつかあるが、中央付近にある深さ15-40cmのピット4本が、柱穴と考えられる。北壁中央にわずかに壁を掘込み、床面を10cm程下げて竈がつくられており、袖の痕跡は見られない。遺物は土師器の甕と甑が出土している。

挿図番号	出土遺構	遺物番号	器類	口径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	焼成	調整		備考
									外面	内面	
第8図	SB02	1	土師器甕	11		小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色/暗黄褐色		ヘラ調整	ヘラ調整	
"	"	2	土師器甑				明茶色/黄茶褐色				取手部分

表1 竪穴住居(SB02)出土土器観察表



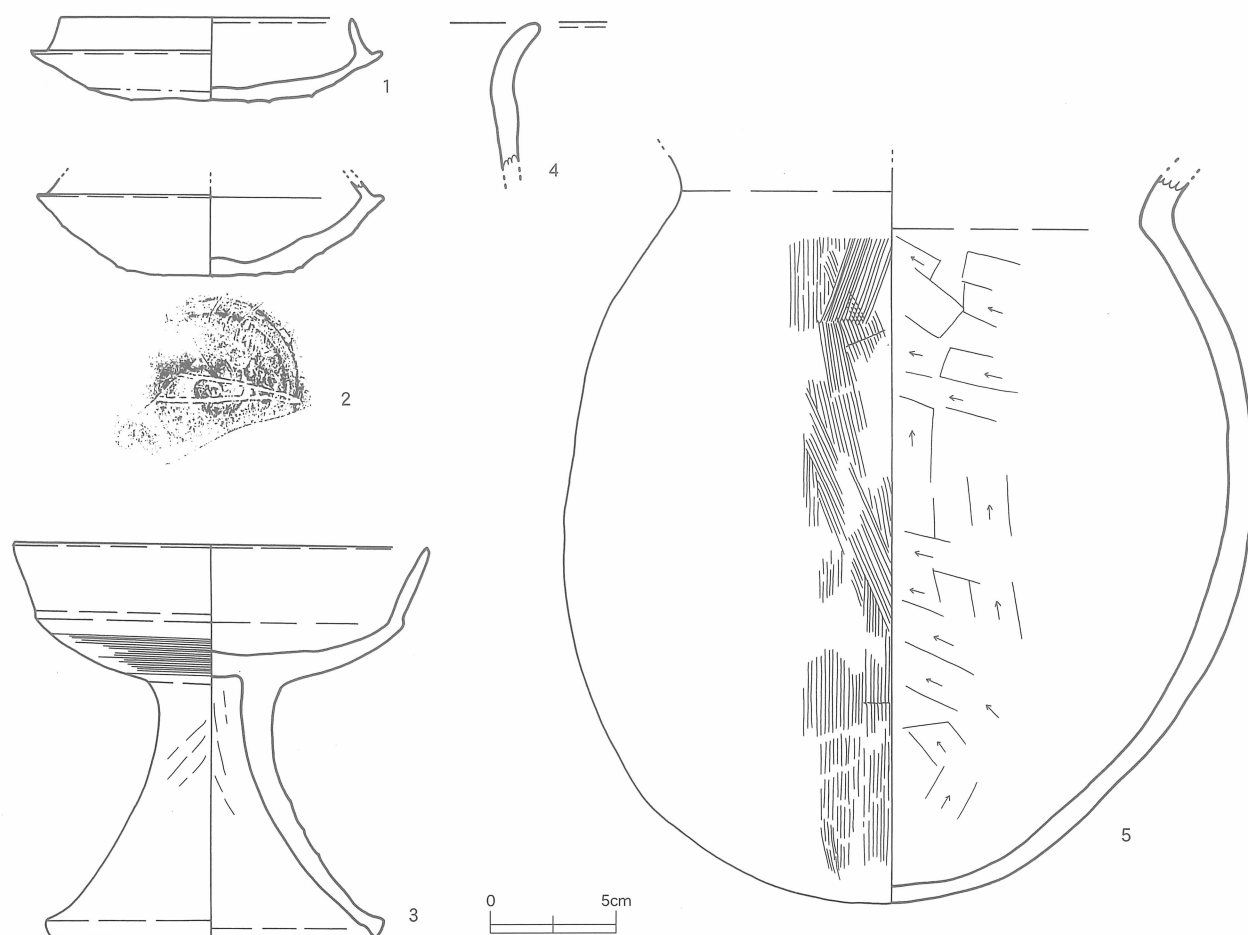
第9図 竪穴住居(SB03)実測図 [1/60]



第10図 竪穴住居(SB03)竈実測図 [1/40]

SB03 (第9・10・11図・表2・図版4)

調査区の西側にあり、削平されていたが良く残っていた。南北の長さ3.6m、東西長さ3.7mと方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は10cm程残っている。床面はほぼ平坦で小ピットが存在するがいずれも10-20cmと浅く、柱穴とは考えられない。北壁中央に壁をわずかに掘り込んで竈がつくられている。竈には黄灰色粘土でつくられた両袖が残っており、竈内部には竈壁や炭化物・焼土を多く含んだ茶褐色土がある。竈右側より、須恵器坏、高坏、土師器の甕、床面より須恵器坏が出土している。



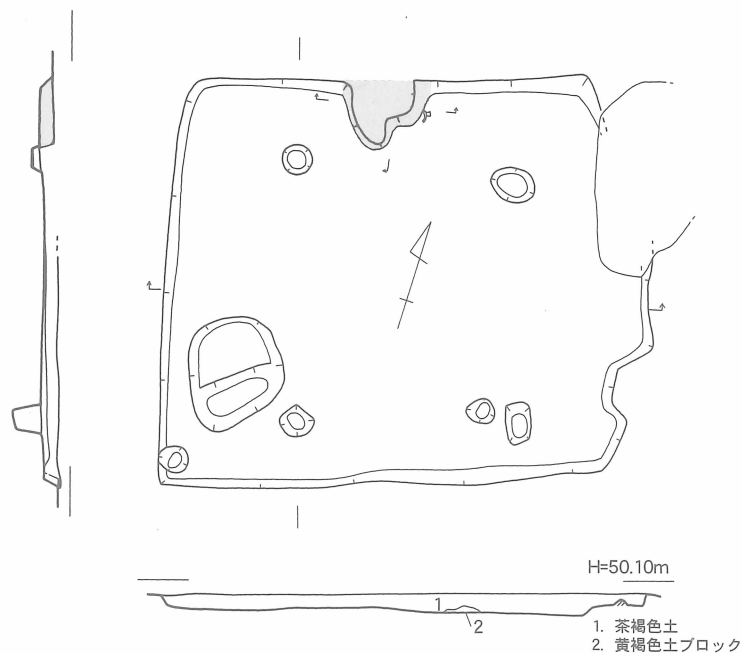
第11図 竪穴住居(SB03)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第11図	SB03	1	須恵器坏身	11.4	3.3	1~5mmの小石が混る	暗黄褐色/黄茶褐色	不良	ヨコナデ、回 転ヘラケズリ	ヨコナデ、 回転ナデ	
"	"	2	須恵器坏身			小石が混るが精選されている	暗褐色/淡灰色	良好	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ	
"	"	3	須恵器高坏	16.3	12.8	1~6mmの小石が混る	茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ 目・ねじり痕	ヨコナデ、回転 ナデ・ねじり痕	生焼
"	"	4	土師器甕			1~4mm大の小石が混る	淡灰黄褐色/黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ナデ	ハケ目、 ヘラ調節	細片
"	"	5	" 甕			1~8mm大の小石が混る	暗茶灰褐色/暗黄灰褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ハケ目、 ヘラ削り	

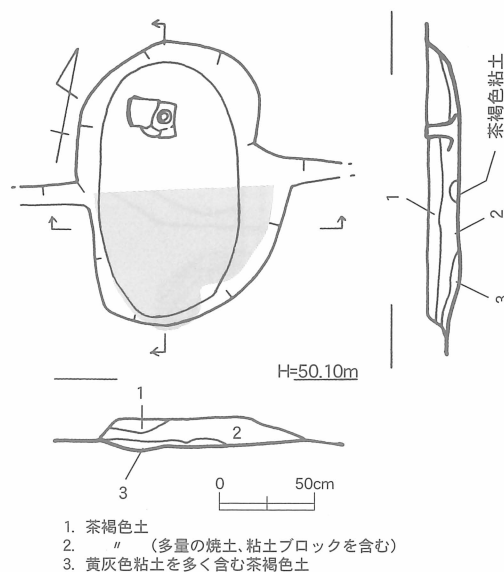
表2 竪穴住居(SB03)出土土器観察表

S B 0 4 （第12・13・14図・表3・図版4）

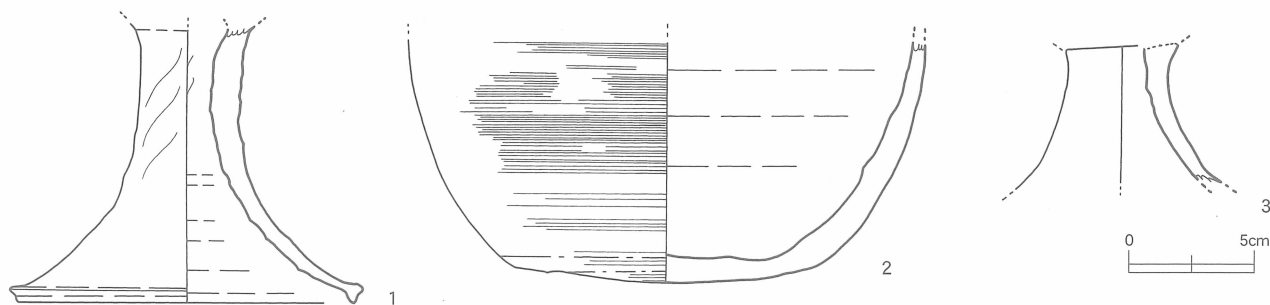
S B 0 3 の東側に隣接しており、削平はされているが、南北の長さ 3. 2 m、東西の長さ 3. 5 m とほぼ方形の竪穴住居で、床面はほぼ平坦で小ピットが存在するがいずれも 1 0 - 1 5 c m と浅く、柱穴とは考えられない。全体に床面まで壁は 1 0 - 1 5 c m 程度残っている。北壁中央に 5 5 c m 程、壁を大きく掘り込んで竈がつくられている。竈前面の床面は浅く掘り込まれ、竈内部には竈壁や炭化物・焼土を多く含んだ茶褐色土がある。また、竈中央には支脚として使用された須恵器高坏脚部が残っていた。出土遺物として、このほか土師器高坏、平瓶が出土している。



第 1 2 図 竪穴住居(SB04)実測図 [1/60]



第 1 3 図 竪穴住居(SB04)竈実測図 [1/40]



第 1 4 図 竪穴住居(SB04)出土土器実測図 [1/3]

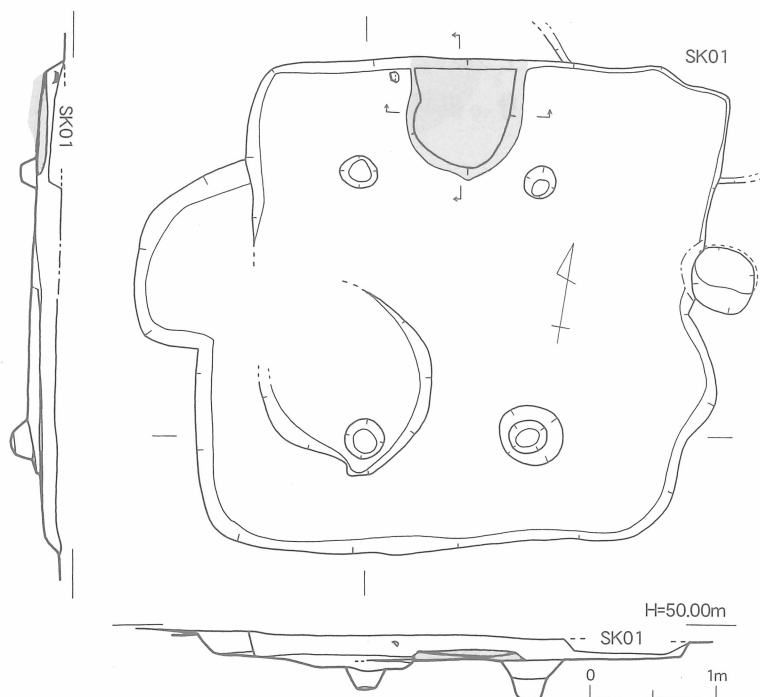
挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第14図	SB04	1	須恵器高坏			精選されている	黄茶暗灰褐色	普通	ねじり痕、ヨコナデ	ねじり痕、ヨコナデ	
"	"	2	" 平瓶			小石が混る、細砂粒を含む	暗灰黄褐色/暗茶灰褐色		カキ目、回転ヘラ削り	ヨコナデ、回転ナデ	
"	"	3	土師高坏脚			赤粒子が混る、細砂粒を含む	明黄茶色	普通	ナデ	しぼり痕、ヨコナデ	

表 3 竪穴住居(SB04)出土土器観察表

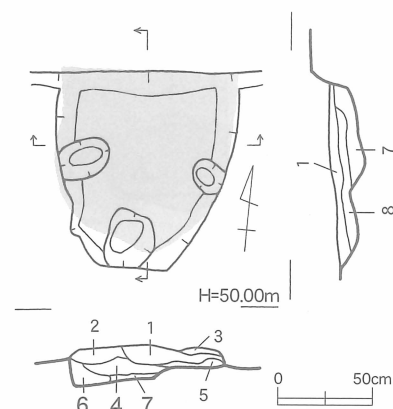
S B 0 5 （第15・16・17図・表4・図版5）

調査区の南側にあり、南北の長さ 3. 9 m、東西の長さ 3. 7 m と方形の竪穴住居で、西壁中央に少し張り出しがある。全体に床面まで壁は 2 0 c m 程度残っている。床面は平坦で深さ 1 5 - 3 0 c m のピット 4 本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は 2. 1 m、東西の柱間は 1. 4 m で南北柱間が長い。

北壁中央に竈がつくられている。袖は検出できなかったが竈内部に黄灰色粘土があり、竈壁の一部と思われる。また、竈内部に20cmのピット3個が検出されたが、用途は不明である。竈内部には炭化物・焼土を多く含んだ茶褐色土がある。竈左側より須恵器坏身が、この他、須恵器坏、土師器甕、壺が出土している。

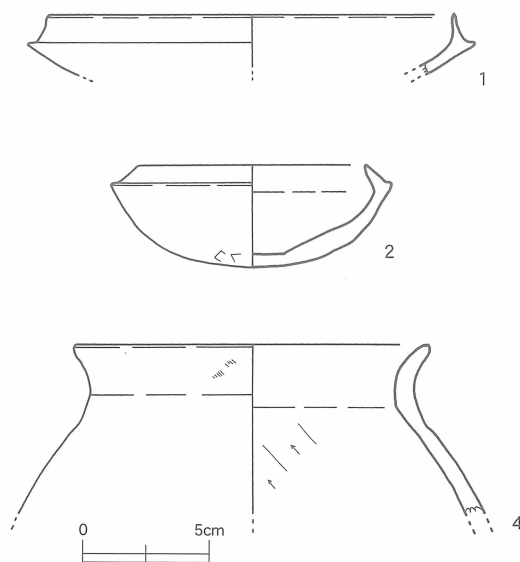


第15図 竪穴住居(SB05)実測図 [1/60]

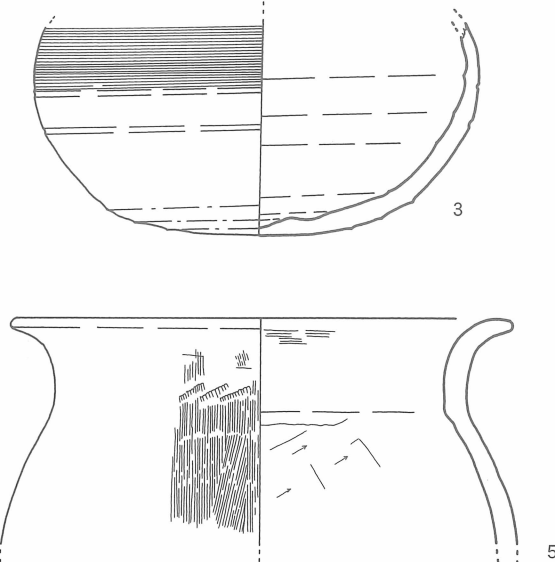


1. 焼土、粘土ブロックまじる赤褐色土
2. 茶褐色土(焼土をわずかに含む)
3. " (焼土を多く含む)
4. " (焼土等はまじらない)
5. "
6. 黄灰色粘土
7. 暗茶褐色土(焼土まじらない)
8. 焼土、炭化物ブロックが多くまじる赤褐色土

第16図 竪穴住居(SB05)竈実測図 [1/40]



第17図 竪穴住居(SB05)出土土器実測図 [1/3]

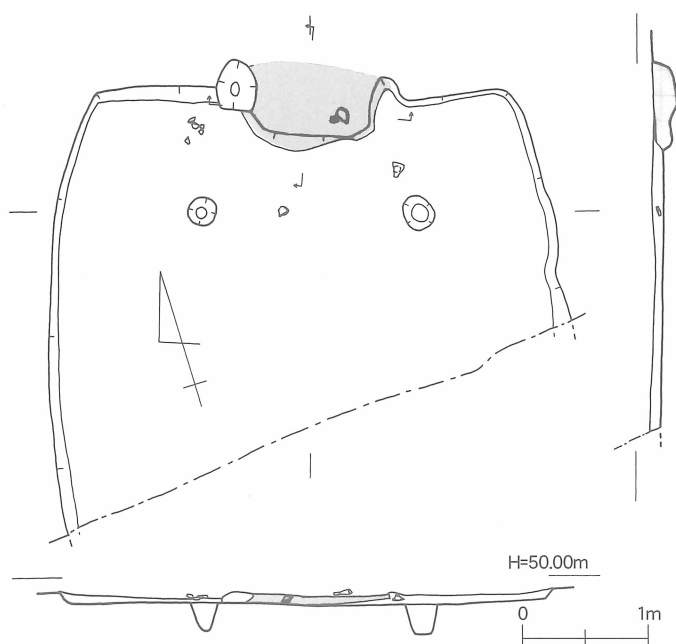


挿図番号	出土遺構	遺物番号	器類	口径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	焼成	調整		備考
									外面	内面	
第17図	SB05	1	須恵器坏身	16		粒子が混るが精選されている	淡灰黄色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	
"	"	2	" 坏身	9	4	小石が混るが精選されている	淡灰乳色/暗灰褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ削り	ヨコナデ	
"	"	3	" 壺			小石が混る細砂粒を含む	暗灰茶褐色/黄灰褐色	普通	カキ目、ヨコナデ	回転ヨコナデ	
"	"	4	土師器甕	14		小石が混る砂粒を含む	暗茶黄褐色/黒黄色	やや不良	ハケ目	ヨコナデ、ヘラ調節	
"	"	5	" 甕	19.8		小石が混る砂粒を含む	黄灰褐色/黄茶灰褐色	やや不良	ヨコナデ後ハケ目	ハケ目、ヘラ調節	黒班有り

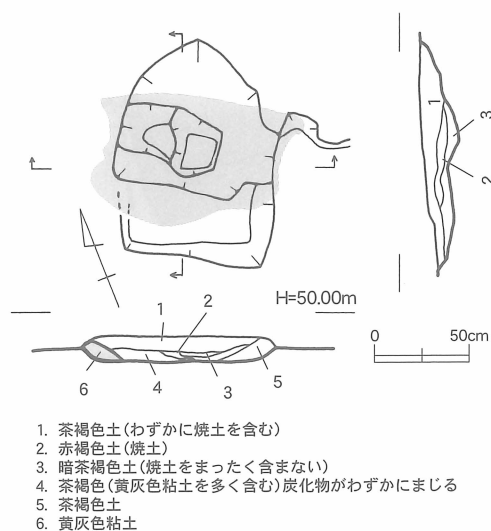
表4 竪穴住居(SB05)出土土器観察表

SB06 (第18・19・20図・表5・図版5)

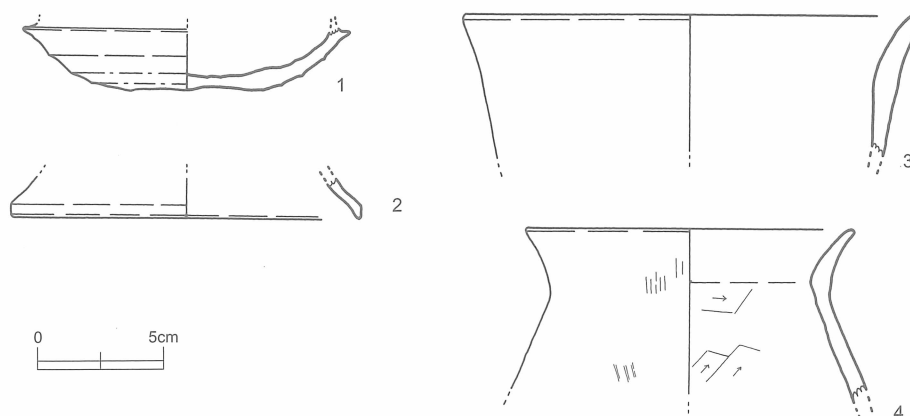
南半分は調査区外であるが、南北の長さ3.5 + α m、東西の長さ4.0 mと方形の竪穴住居と思われる。全体に床面まで壁は10 cm程度残っている。床面はほぼ平坦で。竈前面の深さ20 - 25 cmのピット2本が、柱穴と考えられ、南側に未検出の部分と合わせて4本柱と考えられる。東西の柱間は1.7 mで、南北柱間は2.0 + α m。北壁中央に壁を45 cm掘り込んで竈がつくられ、内部は中央部分を深く掘りこんでおり、竈前面の床面は浅く掘り下げられている。竈内には竈壁の黄灰色粘土や炭化物・焼土を多く含んだ茶褐色土がある。竈側より、須恵器坏身、高坏脚部、土師器の甕が出土している。



第18図 竪穴住居(SB06)実測図 [1/60]



第19図 竪穴住居(SB06)竈実測図 [1/40]



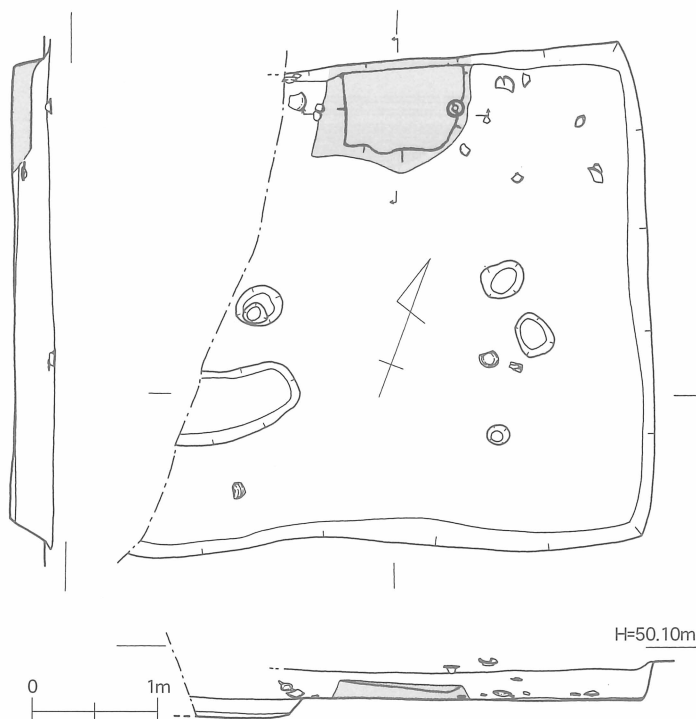
第20図 竪穴住居(SB06)出土土器実測図 [1/3]

挿図番号	出土遺構	遺物番号	器類	口径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	焼成	調整		備考
									外面	内面	
第20図	SB06	1	須恵器坏身			小石が混る、精選されている	暗灰色/灰色	良好	ヨコナデ、回転ヘラ削り	回転ナデ	
"	"	2	" 高坏脚			小石が混る、砂粒を含む	茶色	やや不良	不明	ヨコナデ	生焼
"	"	3	土師器甕	17.8		小石が混る、砂粒を含む	茶褐色/黄茶褐色	不良	不明	不明	
"	"	4	" 甕	12.8		小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色/暗黄褐色	やや不良	ハケ目	不明、ヘラ削り	

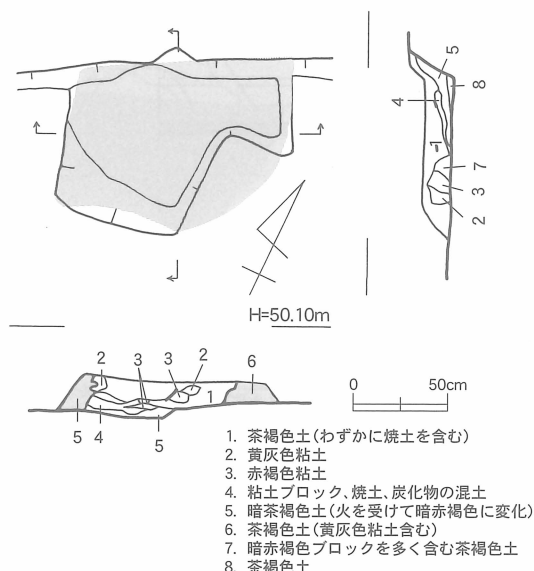
表5 竪穴住居(SB06)出土土器観察表

S B 0 7 (第21・22・23図・表6・図版5)

西側の一部が調査区外であるが、全体が削平されているため明確ではないが南北の長さ3.9m、東西の長さ3.9+αm、と方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は20-25cmと良く残っている。



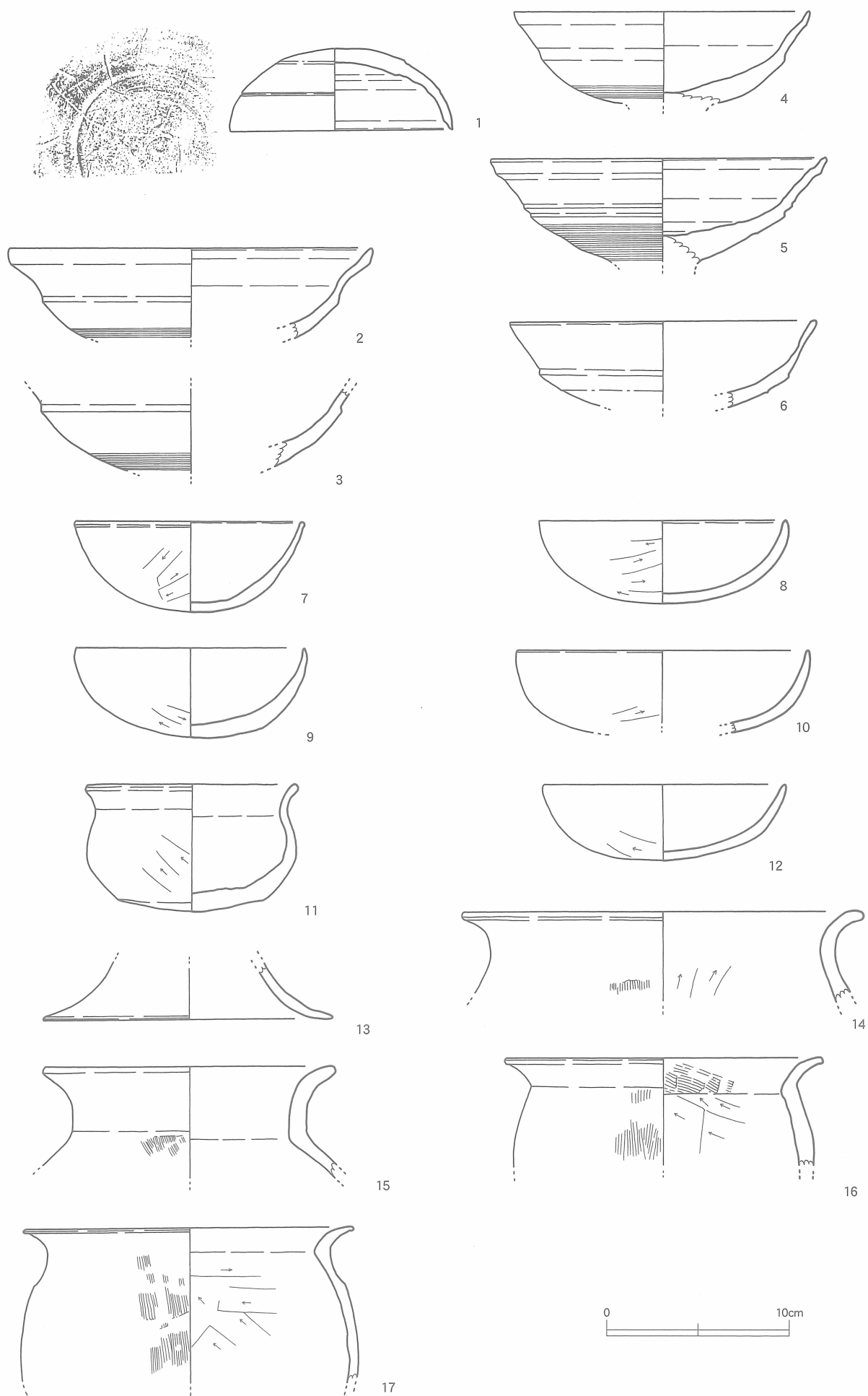
第21図 竪穴住居(SB07)実測図 [1/60]



第22図 竪穴住居(SB07)竈実測図 [1/40]

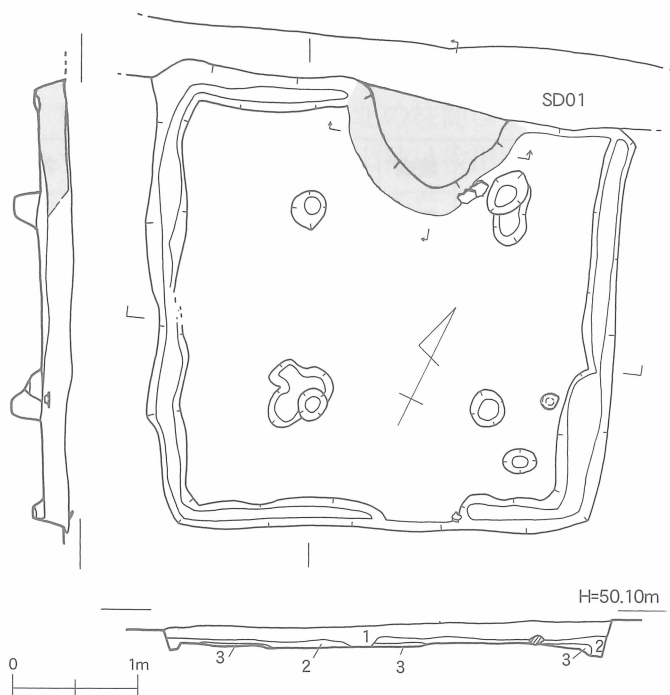
挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第23図	SB07	1	須恵器坏蓋	12.3		小石が混るが精選される	暗灰色/灰色	やや不良	回転ヘラ削り、ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ記号有り
"	"	2	" 高坏	20		小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、カキ目	ヨコナデ、ナデ	生焼
"	"	3	" 高坏			小石が混る、砂粒を含む	暗茶黄褐色	やや不良	ヘラ削り、カキ目	ヨコナデ、摩耗	生焼
"	"	4	" 高坏	16.3		小石が混るが精選される	淡黄茶褐色/黄褐色	やや不良	ヨコナデ、カキ目	ヨコナデ、ナデ	生焼
"	"	5	" 高坏	18.5		砂粒を含むが精選される	明黄褐色	やや不良	ヨコナデ、カキ目	ヨコナデ、ナデ	生焼
"	"	6	" 高坏	17		小石が混る、砂粒を含む	明黄褐色	やや不良	不明、回転ヘラ削り	不明	生焼
"	"	7	土師器碗	12.6	4.9	小石が混る、砂粒を含む	暗黄茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ナデ	
"	"	8	" "	13.6	4.6	小石が混る、砂粒を含む	暗黄褐色	普通	ヘラ調整後ヨコナデ、ヘラ削り	ナデ	
"	"	9	" "	13.5	4.9	小石が混る、砂粒を含む	淡灰褐色	やや不良	不明、ヘラ削り	ナデ	黒班有り
"	"	10	" "	16		砂粒を含む	淡灰褐色/淡灰色	やや不良	磨きがかかる、ヘラ調整	磨きがかかる	外面に一部黒色付着
"	"	11	" 埴	11.6	7	小石が混る、砂粒を含む	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整、ヘラ削り	ヨコナデ、ナデ	
"	"	12	" 碗	13.2	4.2	砂粒を含む	暗茶褐色一部黒褐色	やや不良	不明、ヘラ削り	ヨコナデ、不明	
"	"	13	" 高坏			細砂粒を含む、赤粒子混る	茶褐色/淡茶褐色	やや不良	不明	不明	
"	"	14	" 甕	22		小石が混る、砂粒を含む	暗灰褐色/暗褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	不明、ヘラ削り	黒班有り
"	"	15	" 壺	16		小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ヘラ調整後ハケ目	ヨコナデ、不明	
"	"	16	" 甕	17.2		小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデハケ目	ハケ目、ヘラ調節	
"	"	17	" 甕	18		小石が混る、砂粒を含む	暗茶淡褐色	普通	ヨコナデハケ目	ヨコナデ、ヘラ削り	

表6 竪穴住居(SB07)出土土器観察表

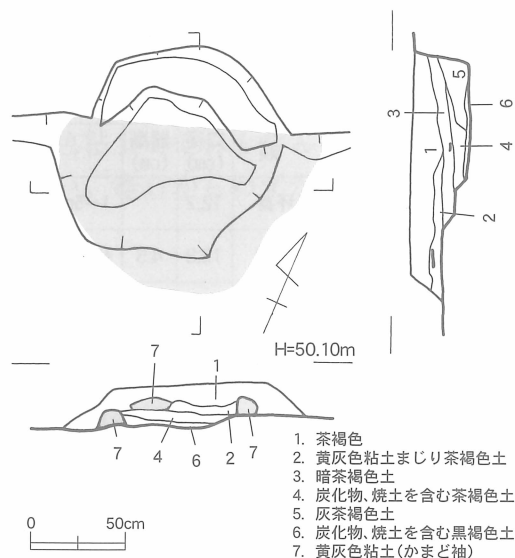


第 2 3 図 竪穴住居(SB07)出土土器実測図 [1/3]

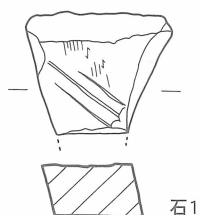
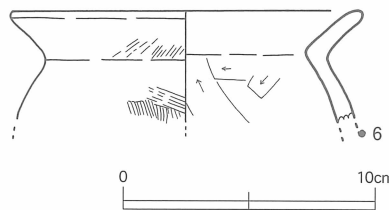
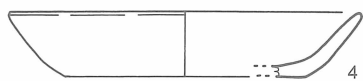
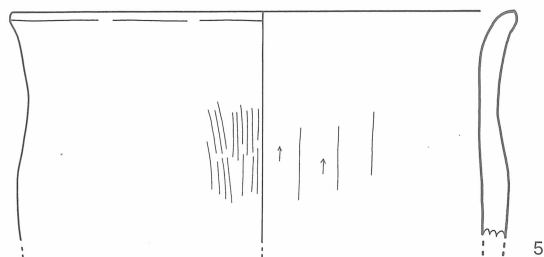
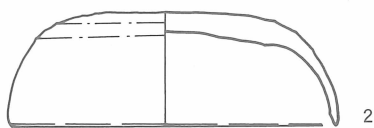
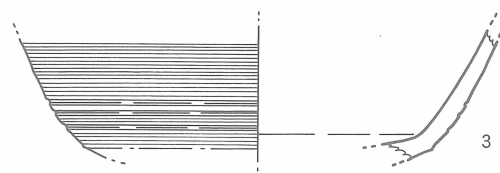
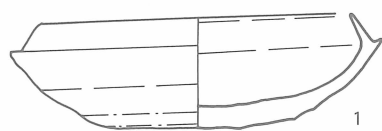
床面はほぼ平坦で、小ピットが存在するが1個を除いてはいずれも10-15cmと浅く、柱穴とは考えられない。北壁には竈がつくられており、黄灰色粘土でつくられた両袖が良く残っている、竈内部には竈壁や炭化物・焼土を多く含んだ赤褐色土があり床面はほとんど掘り下げられていない。竈両側より須恵器の高坏、土師器の甕、椀、高坏、壺と遺物が多く出土しており、床面南側からも須恵器坏蓋、土師器の甕、埴が出土している。



第24図 竪穴住居(SB08)実測図 [1/60]



第25図 竪穴住居(SB08)竈実測図 [1/40]



第26図 竪穴住居(SB08)出土土器・石製品実測図 [1/3]

S B 0 8 (第24・25・26図・表7・8・図版5)

S D 0 1を切ってつくられた、南北の長さ3.6m、東西の長さ3.6mと方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は15cm程度残っている。床面は平坦で深さ10-20cmのピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は1.6m、東西の柱間は1.5mで南北柱間がわずかに長い。壁の下には南側の一部を除いて幅15cm前後の周溝が巡っている。北壁には竈がつくられており、黄灰色粘土でつくられた両袖が良く残り、竈内部には竈壁や炭化物・焼土を多く含んだ茶褐色土があり、床面は10cm程掘り下げられている。竈上部から土師器の甕、甌、床面南側からも須恵器坏蓋、高坏、砥石が出土している。

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第26図	SB08	1	須恵器坏身	12.2		1~5mmの小石が混る、砂粒	淡黄褐色	不良	不明、回転 ヘラ削り	不明、 ナデ	生焼
"	"	2	" 坏蓋	12.8	4.5	砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ、 ナデ	生焼
"	"	3	" 平瓶			細砂粒を含むが精選される	黄茶褐色	やや不良	カキ目、 ヘラ削り	ヨコナデ	生焼
"	"	4	土師器坏	14		砂粒を含む赤粒子混る	暗黄褐色/橙灰褐色	やや不良	ヨコナデ、 ヘラ調整	ヨコナデ	
"	"	5	" 甌	20		1~5mm大の小石が混る	暗褐色/暗茶褐色	普通	ハケ目後 ナデ	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"	"	6	弥生甕	13.8		1~3mm大の小石が混る	暗黄褐色	普通	ハケ目後ナデ、 ヨコナデ	ヨコナデ、 ヘラ調整	

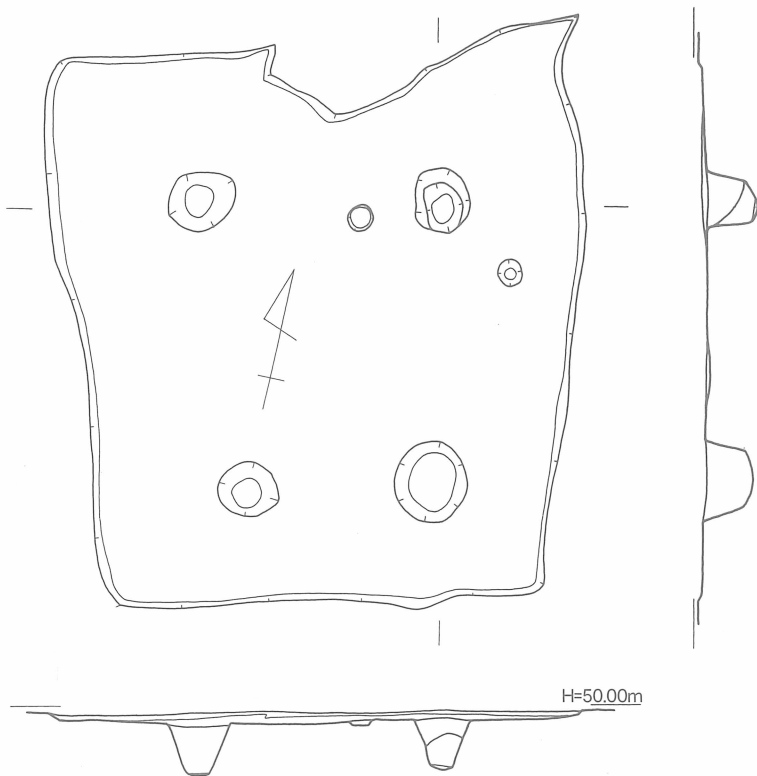
表 7 竪穴住居(SB08)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	色 調	備 考
第26図	SB08	石1	砥石			玄武岩	褐色	全面使用痕有り

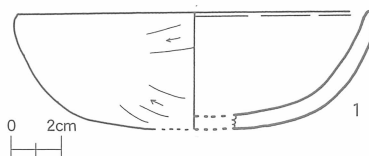
表 8 竪穴住居(SB08)出土石製品観察表

S B 0 9 (第27・28図・表9・図版6)

調査区の南側で検出されたが大きく削平されている。南北の長さ4.3m、東西の長さ3.9mと長方形の竪穴住居で、南側は削平を受けていたが、全体に床面まで壁は2-10cmとかろうじて残っている。床面はほぼ平坦で深さ40cm前後のピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は2.4m、東西の柱間は1.5-1.8mで南北柱間が長い。北壁には竈がつくられていたと思われるが、焼土等の痕跡は見られない。出土遺物としてわずかに土師器の埴が出土している。



第 2 7 図 竪穴住居(SB09)実測図 [1/60]



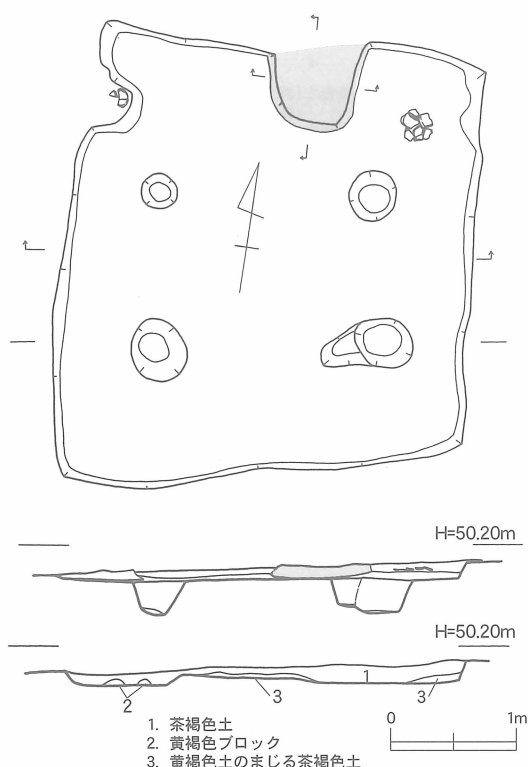
第 2 8 図 竪穴住居(SB09)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第28図	SB09	1	土師器壺	14		砂粒を含む、赤粒子が混る	淡黄褐色	普通	ヘラ調整、 ヘラ削り	ヨコナデ、 ナデ	

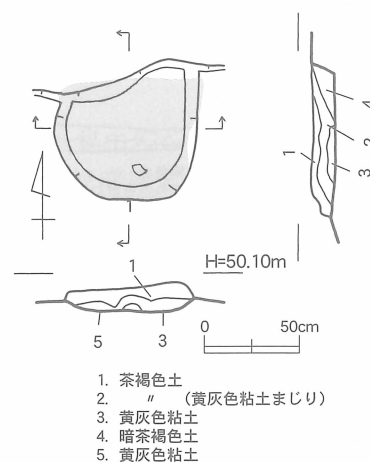
表 9 竪穴住居(SB09)出土土器観察表

SB10 (第29・30・31図・表10・図版6)

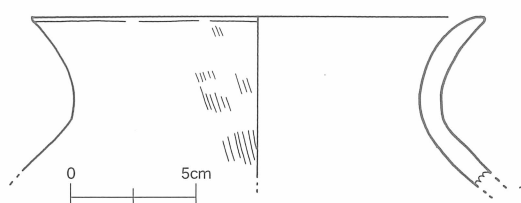
SB08の南側に隣接した、南北の長さ3.4m、東西の長さ3.2mと方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は10-15cm程度残っている。床面はほぼ平坦で深さ20-25cm前後のピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は1.2m、東西の柱間は1.8mで東西柱間が長い。北壁には竈がわずかに残っていたが粘土袖は検出できず、竈内部には黄灰色粘土とそれを含んだ茶褐色土があり焼土等は含まれていなかった。また、床面は掘り下げられていない。竈右からわずかに土師器の甕が出土している。



第29図 竪穴住居(SB10)実測図 [1/60]



第30図 竪穴住居(SB10)竈実測図 [1/40]



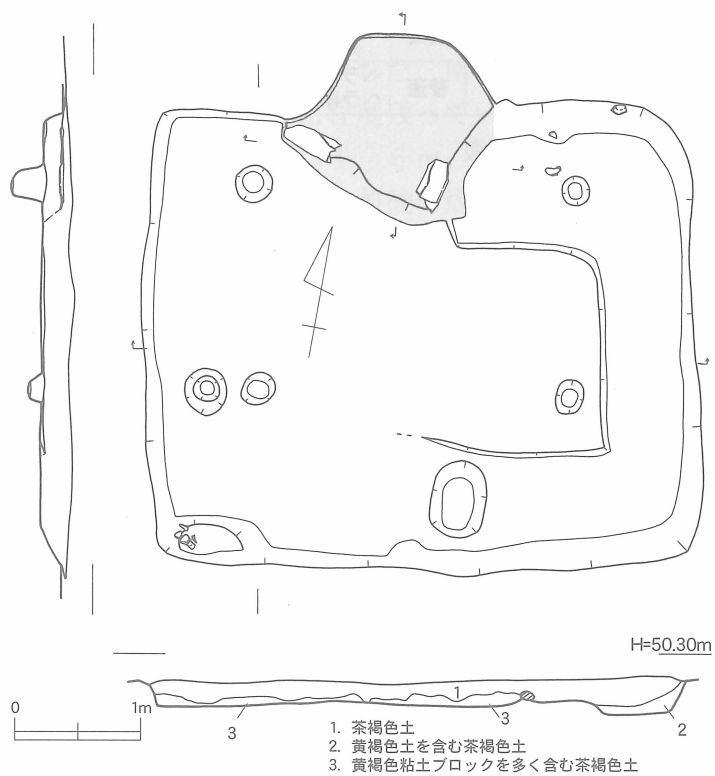
第31図 竪穴住居(SB10)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第31図	SB10	1	土師器甕	18		小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色	やや不良	ハケ目後 ヨコナデ	ヨコナデ、 不明	

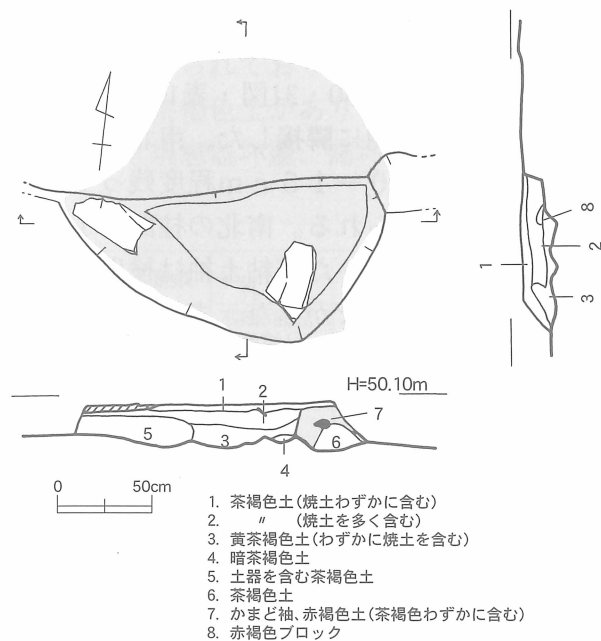
表 10 竪穴住居(SB10)出土土器観察表

SB11 (第32・33・34図・表11・図版6)

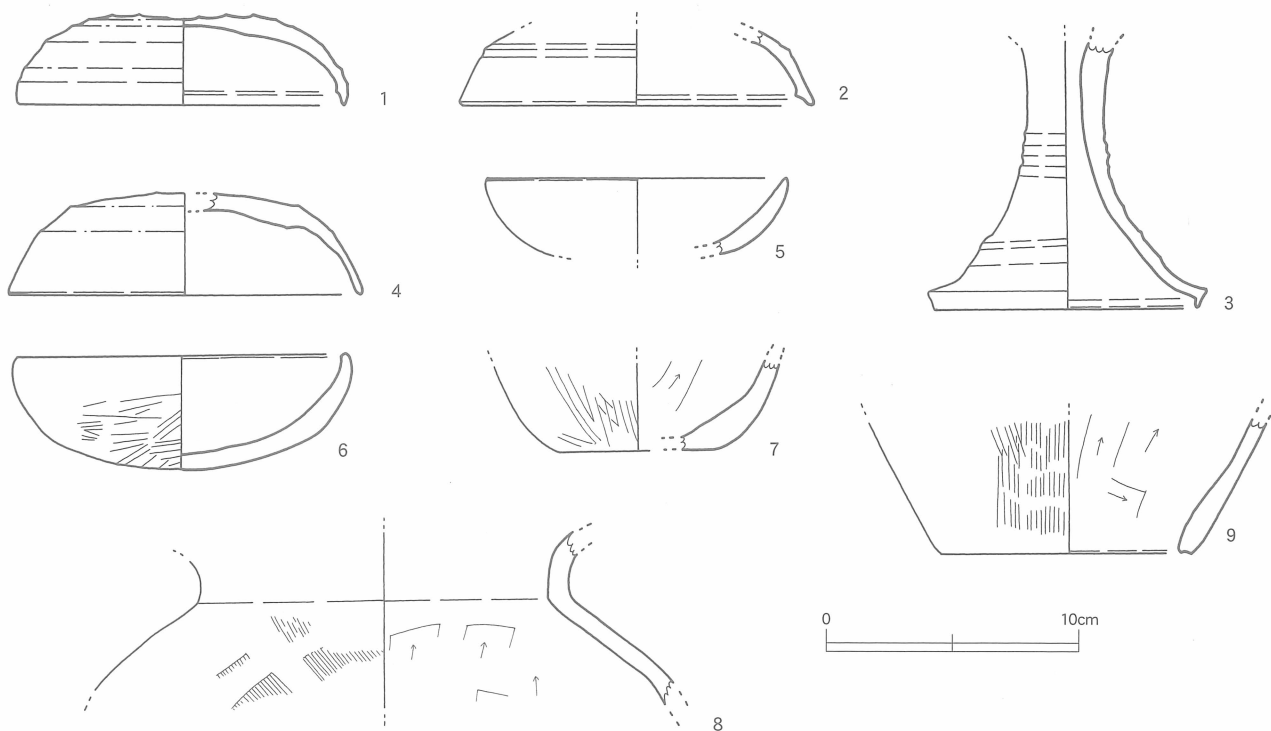
SB10の東側に隣接した南北の長さ3.7m、東西の長さ4.4mと方形の長竪穴住居で、床面まで壁は20cm、全体に良く残っている。床面はほぼ平坦で、深さ15-20cm前後のピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は1.6m、東西の柱間は2.5mで東西柱間が長い。北壁中央に壁を60cm掘り込んで竈がつくられ、前面には茶褐色土でつくられた右袖がかろうじて残っている。内部は中央部分を掘りこんでおり、竈内には焼土を多く含んだ茶褐色土がある。竈上部より片岩片が2枚出土しており、竈の一部として使用されていた可能性がある。竈右から須恵器坏蓋、土師器の甕、壺が、南西隅から須恵器高坏脚部が、竈内から須恵器坏蓋、土師器甕、埴が出土している。



第32図 竪穴住居(SB11)実測図 [1/60]



第33図 竪穴住居(SB11)竈実測図 [1/40]



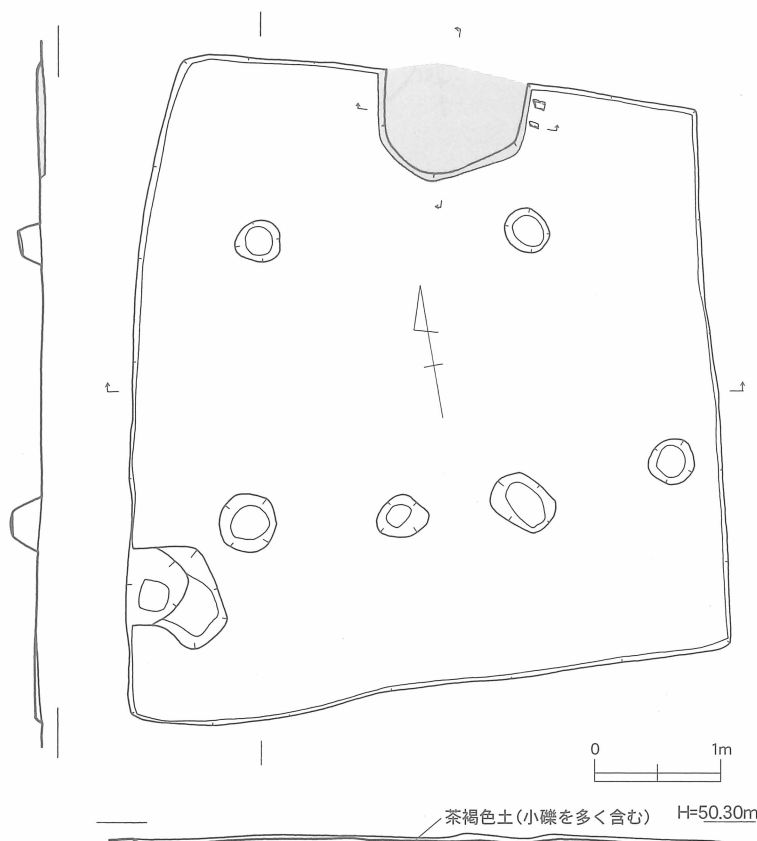
第34図 竪穴住居(SB11)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第34図	SB11	1	須恵器坏蓋	13		砂粒を含むが、精選される	暗灰色	良好	回転ヘラ削り、 ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	2	" 坏蓋	14		砂粒を含むが、精選される	灰褐色/橙褐色	良好	回転ヨコナ デ	ヨコナデ	
"	"	3	" 高坏脚			小石が混る、砂粒を含む	淡茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	生焼
"	"	4	須恵器坏蓋	14	4	小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色	やや不良	不明	ナデ	
"	"	5	土師器碗	12		小石が混る、砂粒を含む	淡茶褐色	普通	ナデ	ナデ	
"	"	6	" 碗	17		小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ナデ	
"	"	7	" 埴			小石が混る、砂粒を含む	暗茶褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整	
"	"	8	" 壺			小石が混る、砂粒を含む	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"	"	9	" 甑			小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ハケ目後 ヨコナデ	ヘラ調整、 ヨコナデ	

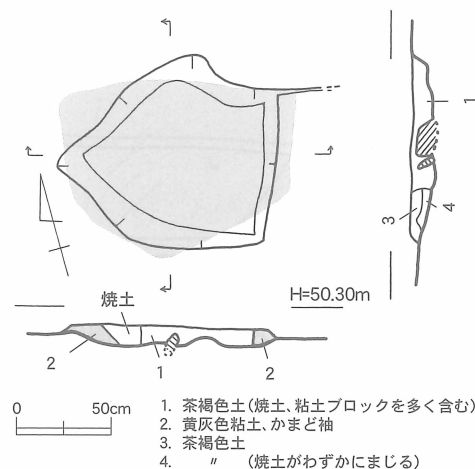
表 1 1 竪穴住居(SB11)出土土器観察表

SB12 (第35・36・37図・表12・図版6)

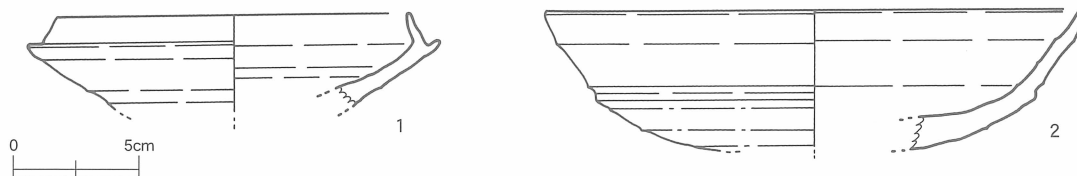
SB11の東側に隣接した南北の長さ5.3m、東西の長さ4.6mのややいびつな長方形の竪穴住居で、大きく削平されていたため、全体に床面まで壁は0-5cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、深さ15-25cm前後のピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は2.2m、東西の柱間は2.2mで柱間は同じである。北壁中央に壁をわずかに掘り込んで竈がつくられ、前面には黄灰色粘土でつくられた両袖が良く残っている。内部は中央部分に20cm程の石が残っており、支石として利用されている。床面は少し掘りこんでおり、竈内には焼土や粘土を多く含んだ茶褐色土がある。竈右から須恵器坏身、竈内から須恵器高坏脚部が出土している。



第 3 5 図 竪穴住居(SB12)実測図 [1/60]



第 3 6 図 竪穴住居(SB12)竈実測図 [1/40]



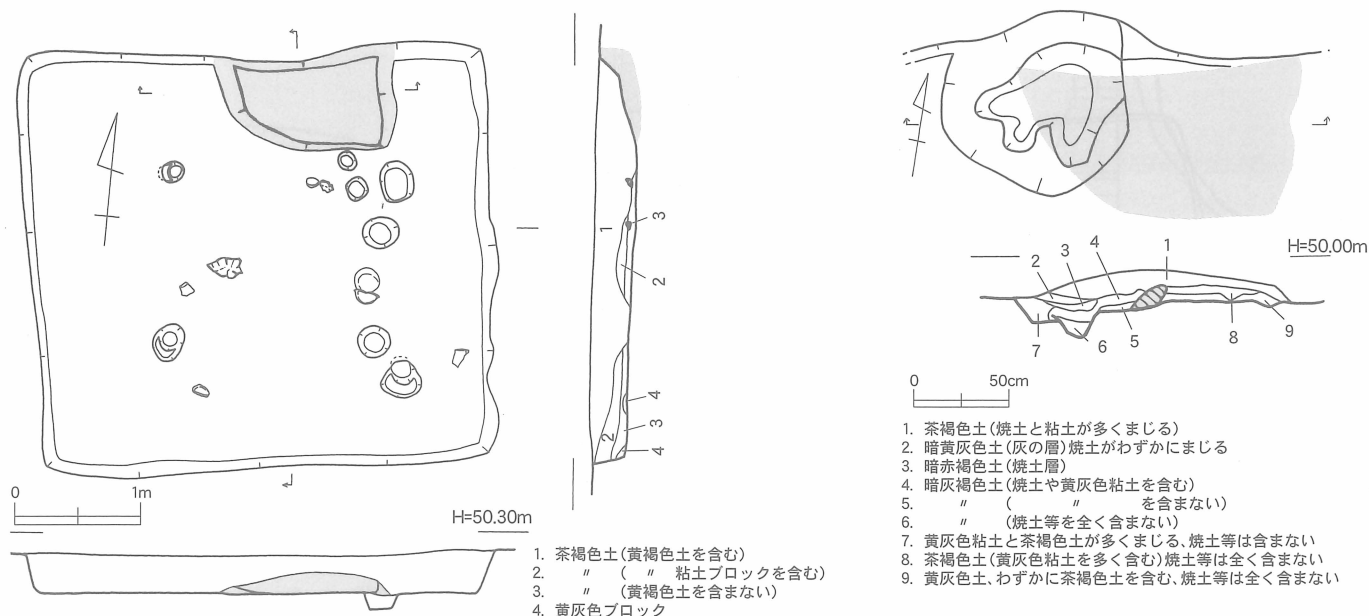
第 3 7 図 竪穴住居(SB12) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第37図	SB12	1	須恵器坏身	14		砂粒を含むが精選される	暗灰色	良好	ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	
"		2	" 高坏	21.2		小石が混じる、砂粒を含む	黄褐色	やや不良	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ、 ナデ	生焼

表 1 2 竪穴住居(SB12)出土土器観察表

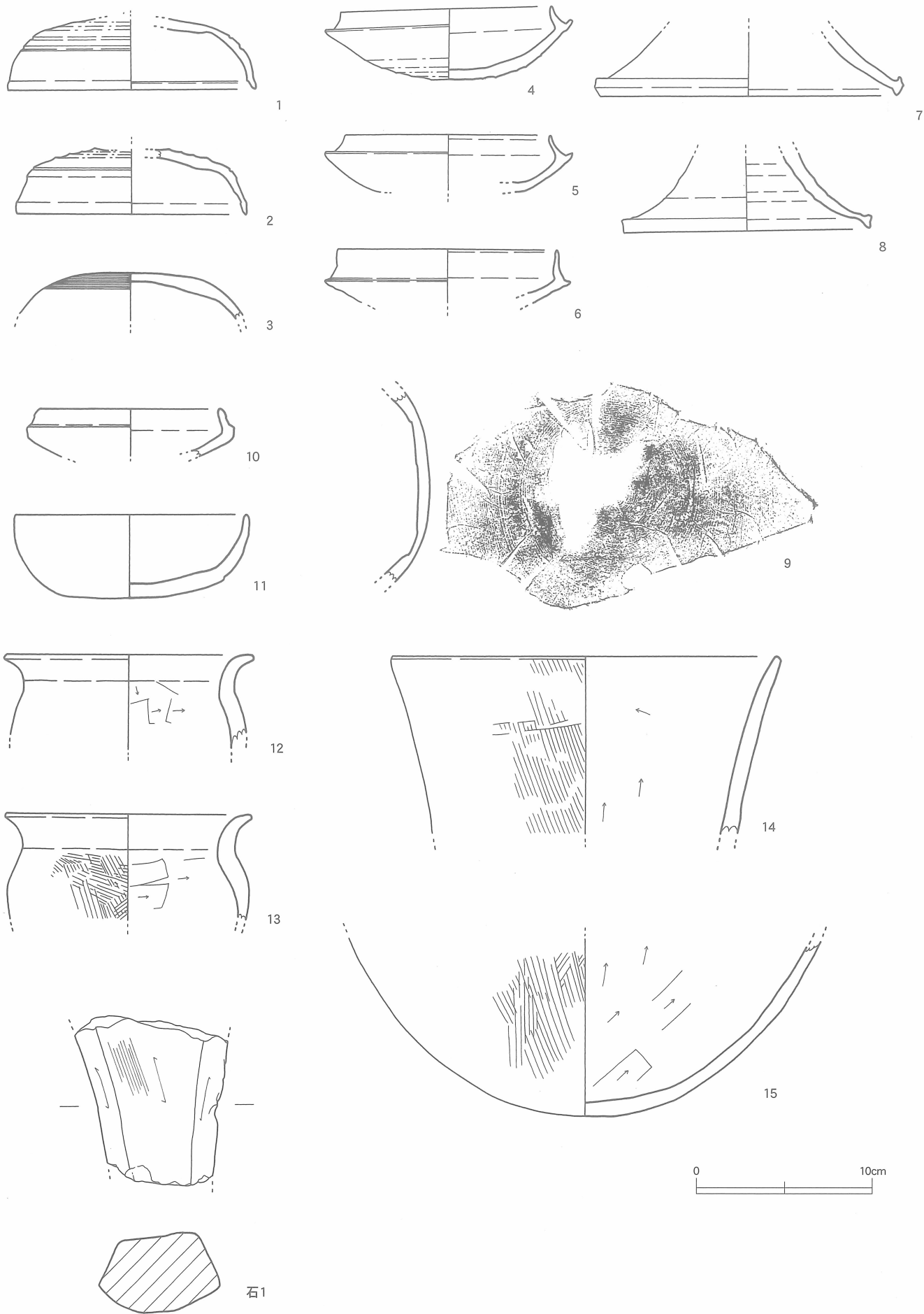
SB 1 3 (第38・39・40図・表13・14・図版7)

SD01を切ってつくられた、南北の長さ3.3m、東西の長さ3.7mの方形の竪穴住居で、全体に良く残っており、床面まで壁が35-40cm残っている。床面はほぼ平坦で、深さ10-25cm前後のピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は1.3m、東西の柱間は1.6mで東西柱間がわずかに長い。北壁中央に壁をわずかに掘り込んで竈がつくられ、前面には黄灰色粘土でつくられた右袖が残っている。内部は一部深く掘り込んでおり、焼土や粘土を多く含んだ茶褐色土がある。竈前から須恵器高坏脚部が、床面中央付近から須恵器坏蓋・身、土師器の甕、甌、が竈内から須恵器高坏脚部、土師器壺が、埋土中から土師器の坏、甕、坑が出土している。



第 3 8 図 竪穴住居(SB13)実測図 [1/60]

第 3 9 図 竪穴住居(SB13)
竈実測図 [1/40]



第40図 竪穴住居(SB13) 出土土器・石製品実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第40図	SB13	1	須恵器坏蓋	14		精選されている	暗灰色	良好	回転ヘラ削り、 ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	2	" 坏蓋	13		精選されている	灰色	良好	回転ヘラ削り、 ヨコナデ	ナデ、 ヨコナデ	
"	"	3	" 坏蓋			小石が混る、砂粒を含む	灰色	普通	カキ目、 ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	4	" 坏身	12	4	小石が混る、砂粒を含む	灰褐色/黄灰褐色	良好	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ	
"	"	5	" 坏身	11.6		精選されている	灰色	良好	ヨコナデ、回 転ヨコナデ	回転ナデ	
"	"	6	" 坏身	12.4		精選されている	暗茶褐色	良好	回転ヨコナ デ	ヨコナデ	
"	"	7	" 高坏			小石が混る、砂粒を含む	黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	生焼
"	"	8	" 高坏			砂粒を含む、赤粒子が混る	黄橙褐色/黄茶褐色	やや不良	回転ナデ	回転ナデ	生焼
"	"	9	須恵器提瓶			精選されている	暗灰色	良好	カキ目	ナデ	
"	"	10	土師器坏身	10		砂粒を含む	淡黄褐色	不良	ヨコナデ、 不明	不明	
"	"	11	" 碗	13.1		小石が混る、砂粒を含む	茶黄褐色	やや不良	回転ヨコナ デ、不明	ヨコナデ、 ナデ	
"	"	12	" 甕	14		小石が混る、砂粒を含む	暗茶黄褐色	やや不良	不明	ヨコナデ、 ヘラ調整	
"	"	13	" 甕	14		小石が混る、砂粒を含む	赤茶黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ調整	
"	"	14	" 甗	22		小石が混る、砂粒赤粒子	淡黄褐色/淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ調整	
"	"	15	" 甕			小石が混る、砂粒を含む	暗赤茶褐色/黄褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整	

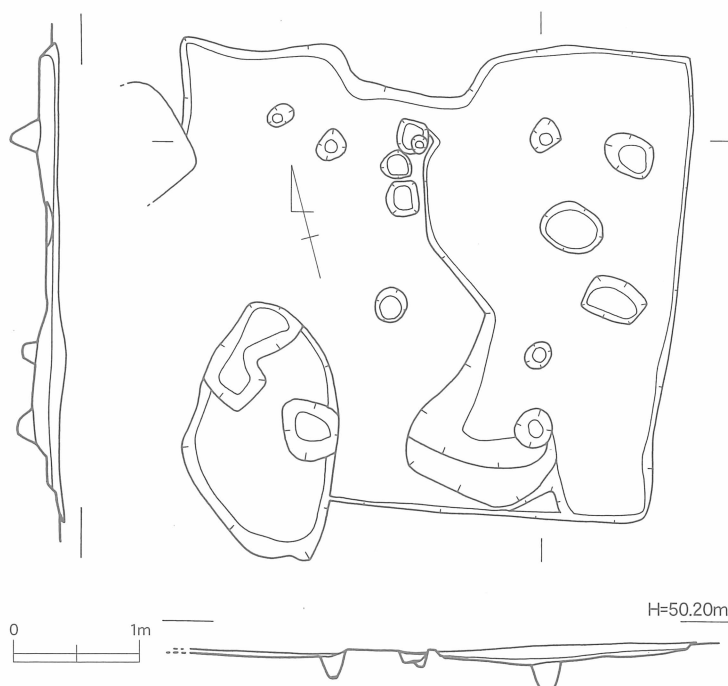
表 1 3 竪穴住居(SB13)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	色 調	備 考
第40図	SB13	石1	砥石			砂岩		全面使用痕有り(6面)

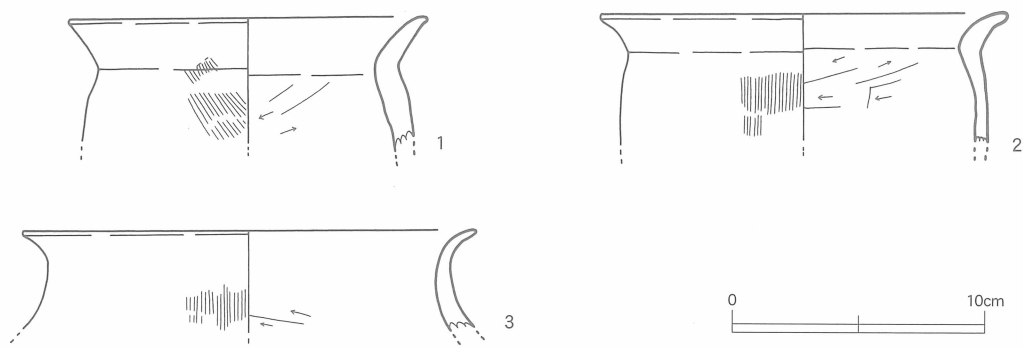
表 1 4 竪穴住居(SB13)出土石器観察表

SB14 (第41・42図・表15・図版7)

SB09の東側に隣接した南北の長さ3.7m、東西の長さ4.0mの方形の竪穴住居で、西側を大きく削平されていたため、全体に床面まで壁は5-10cm程度しか残っていない。床面はほぼ平坦で、深さ15-25cm前後のピット4本が、柱穴と考えられる。南北の柱間は2.3m、東西の柱間は1.7mで南北柱間が長い。竈の痕跡は検出できなかった。出土遺物として、土師器甕が出土している。



第 4 1 図 竪穴住居(SB14)実測図 [1/60]



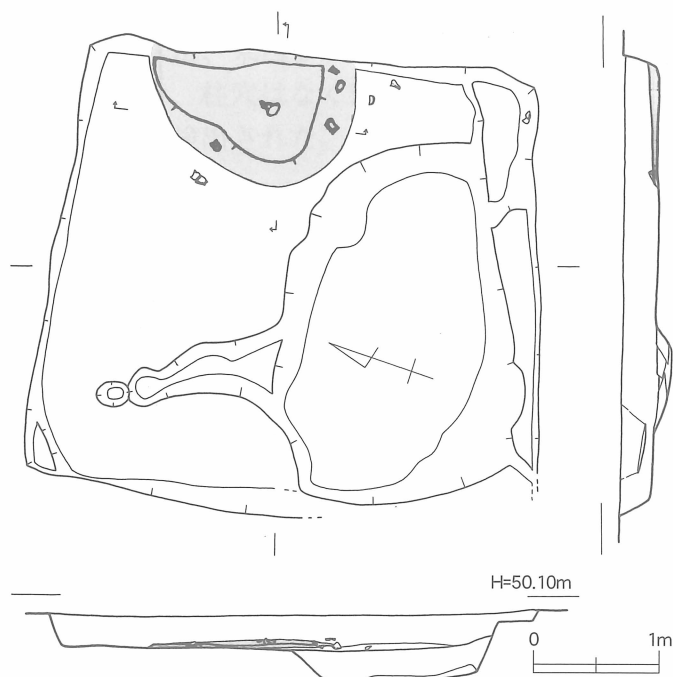
第42図 竪穴住居(S14)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第42図	SB14	1	土師甕	14		小石が混る、砂粒赤粒子含む	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"		2	" 甕	16		小石が混る、砂粒を含む	淡灰褐色/淡黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"		3	" 甕	18		砂粒を含む、赤粒子が混る	黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ調整	

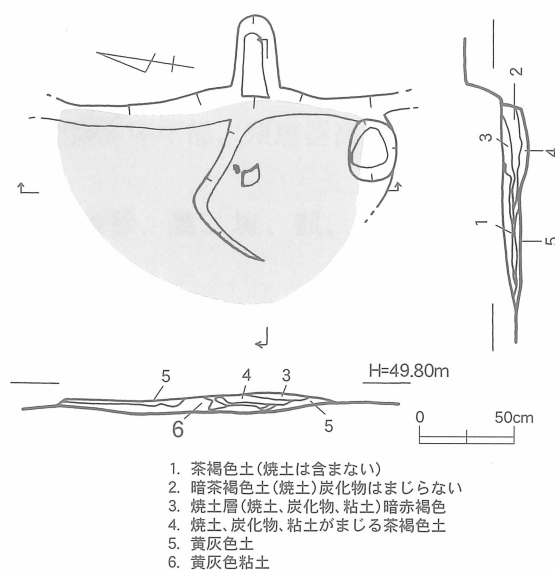
表 1 5 竪穴住居(SB14)出土土器観察表

SB15 (第43・44・45図・表16・17・図版7)

SD03と前後関係は不明であるが、南北の長さ3.8m、東西の長さ3.6mの方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁が25cm程残っている。床面はほぼ平坦で、南側を深さ10-20cm前後の土壌によって掘り込まれている。小ピット1本が検出されたが、柱穴と考えられない。東壁中央に竈がつくられ、壁を40cm程掘り込んで煙道をつくっている。前面には炭化物や焼土が広く検出されたが、粘土でつくられた袖は残っていなかった。竈内部の床面は平坦で、ほぼ中央部から支脚に用いられた須恵器高坏が発見された。このほか、床面付近から須恵器高坏、土師器の甕、甑、埴が出土している。

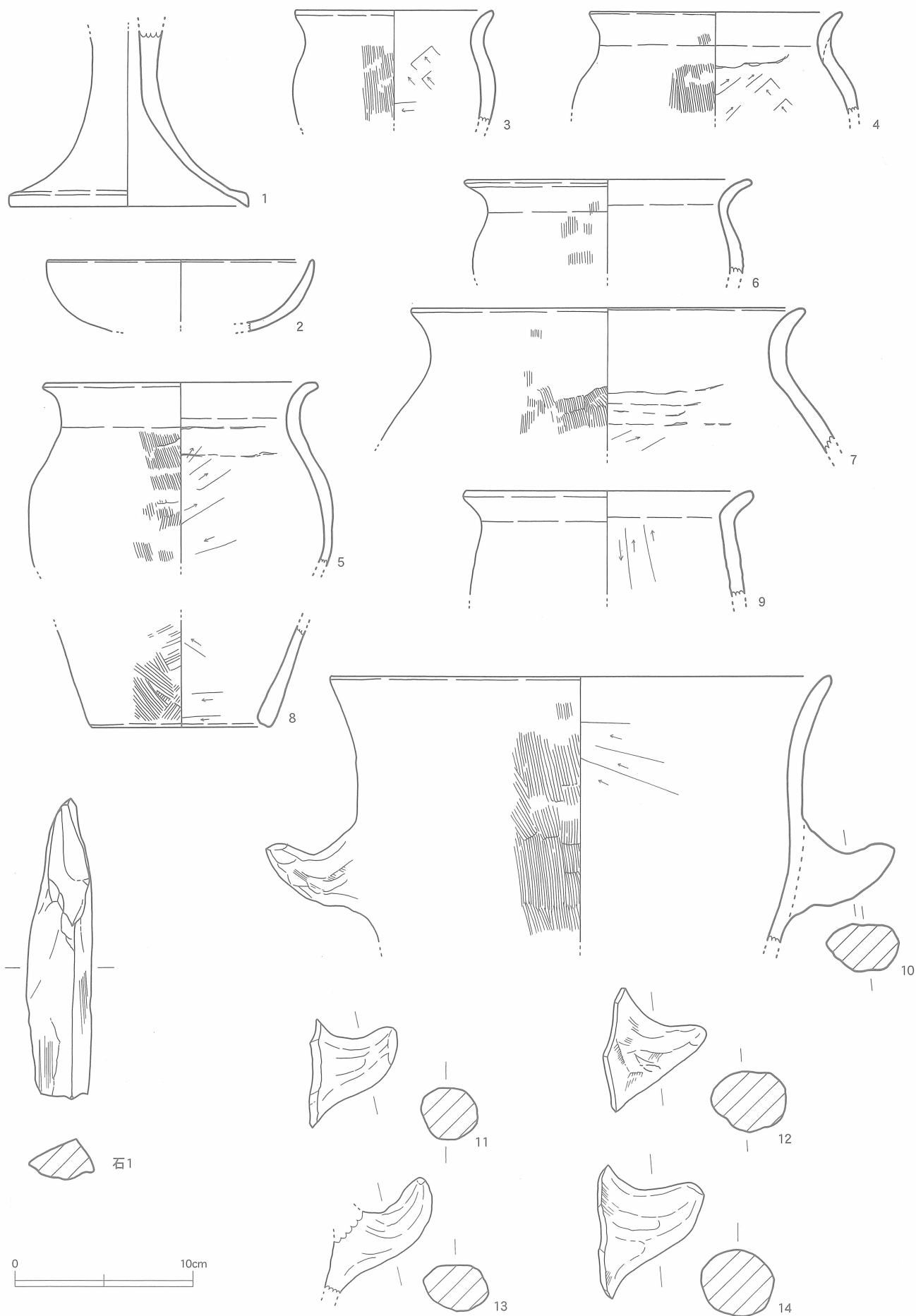


第43図 竪穴住居(SB15)実測図 [1/60]



第44図 竪穴住居(SB15)竈実測図 [1/40]

1. 茶褐色土(焼土は含まない)
2. 暗茶褐色土(焼土)炭化物はまじらない
3. 焼土層(焼土、炭化物、粘土)暗赤褐色
4. 焼土、炭化物、粘土がまじる茶褐色土
5. 黄灰色土
6. 黄灰色粘土



第 4 5 図 竪穴住居(SB15)出土土器・石製品実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第45図	SB15	1	須恵器高坏			砂粒を含む	茶褐色	やや不良	不明	不明	生焼
"	"	2	土師器埴	15		細砂粒を含む	淡黄灰褐色	やや不良	磨きがかか る	磨きがかか る	
"	"	3	" 甕	11		砂粒を含む	淡褐色/黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ調整	
"	"	4	" 甕	14		砂粒を含む	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ調整	すす付着、 貼り付痕
"	"	5	" 甕	15.2		小石が混る、砂粒を含む	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ調整	貼り付痕
"	"	6	" 甕	16		砂粒を含む	暗黄茶褐色	やや不良	不明、 ハケ目	不明	
"	"	7	" 甕	22		小石が混る、砂粒を含む	黄茶灰褐色	普通	ハケ目後 ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	貼り付痕
"	"	8	" 甕			小石が混る、砂粒を含む	明黄褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整	
"	"	9	" 甕	16		小石が混る、砂粒を含む	赤茶明黄褐色/暗褐色	やや不良	不明	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"	"	10	" 甕	28		砂粒を含む	暗黄茶褐色	普通	ハケ目後ヨコ ナデ、ハケ目	ヨコナデ、ヘ ラ調整、不明	黒班有り
"	"	11	" "			砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ナデ	ナデ	把手
"	"	12	" "			砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ハケ目後ナ デ、ナデ	ハケ目	把手
"	"	13	" "			砂粒を含む	淡黄灰褐色	普通	ナデ		把手
"	"	14	" "			砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ナデ、 ハケ目		把手

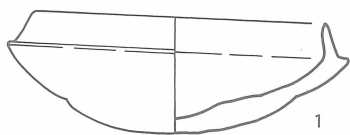
表 1 6 竪穴住居(SB15)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	色 調	備 考
第45図	SB15	石1	砥石			真岩		

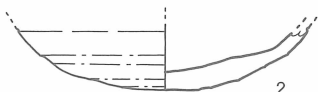
表 1 7 竪穴住居(SB15)出土石器観察表

S B 1 6 (第46・47図・表18・図版7)

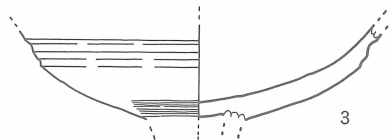
S D 0 2 から切られており、南北の長さ7. 3 m、東西の長さ4. 3 mの長方形の竪穴住居で、北側には南北0. 7 m、東西2. 4 mの張り出しがあり、全体に床面まで壁は2 0 c m程度残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴はなく竈も検出されなかった。住居の中央付近から床面から浮き上がった状態で多量の炭化物が検出された。出土遺物として、床面南側から須恵器高坏坏部、須恵器高坏が、炭化物中や周辺から須恵器提瓶、土師器の甕が出土している。埋土中から土師器、甕、埴、甕、埴把手が出土している。



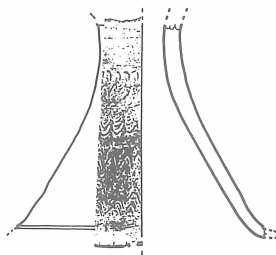
1



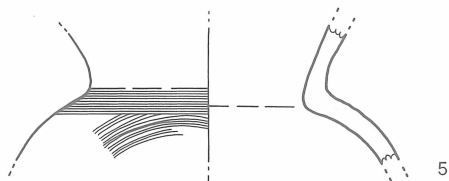
2



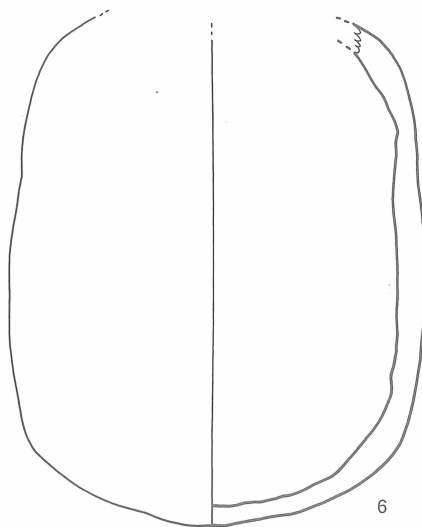
3



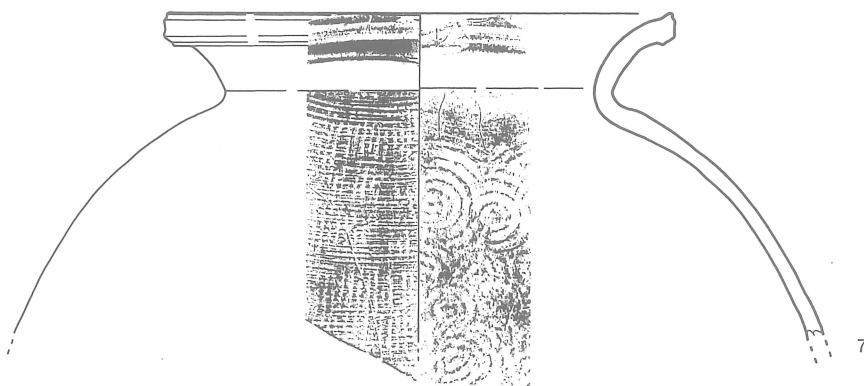
4



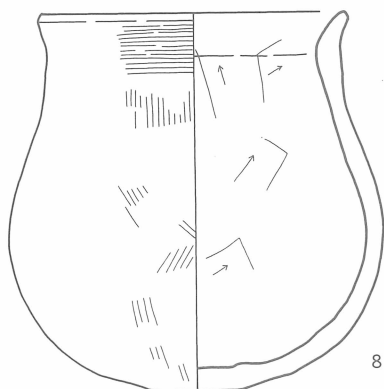
5



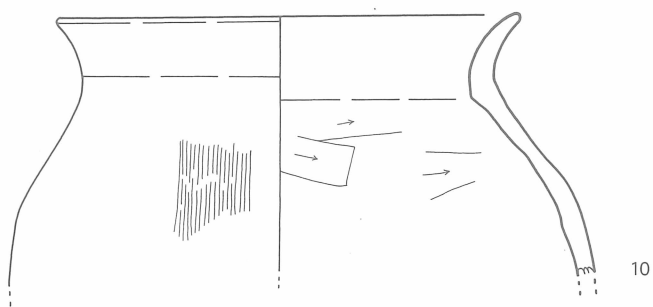
6



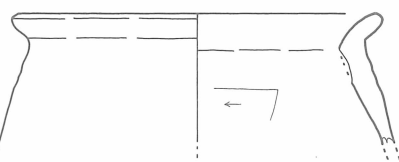
7



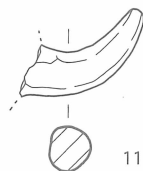
8



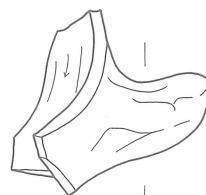
10



9



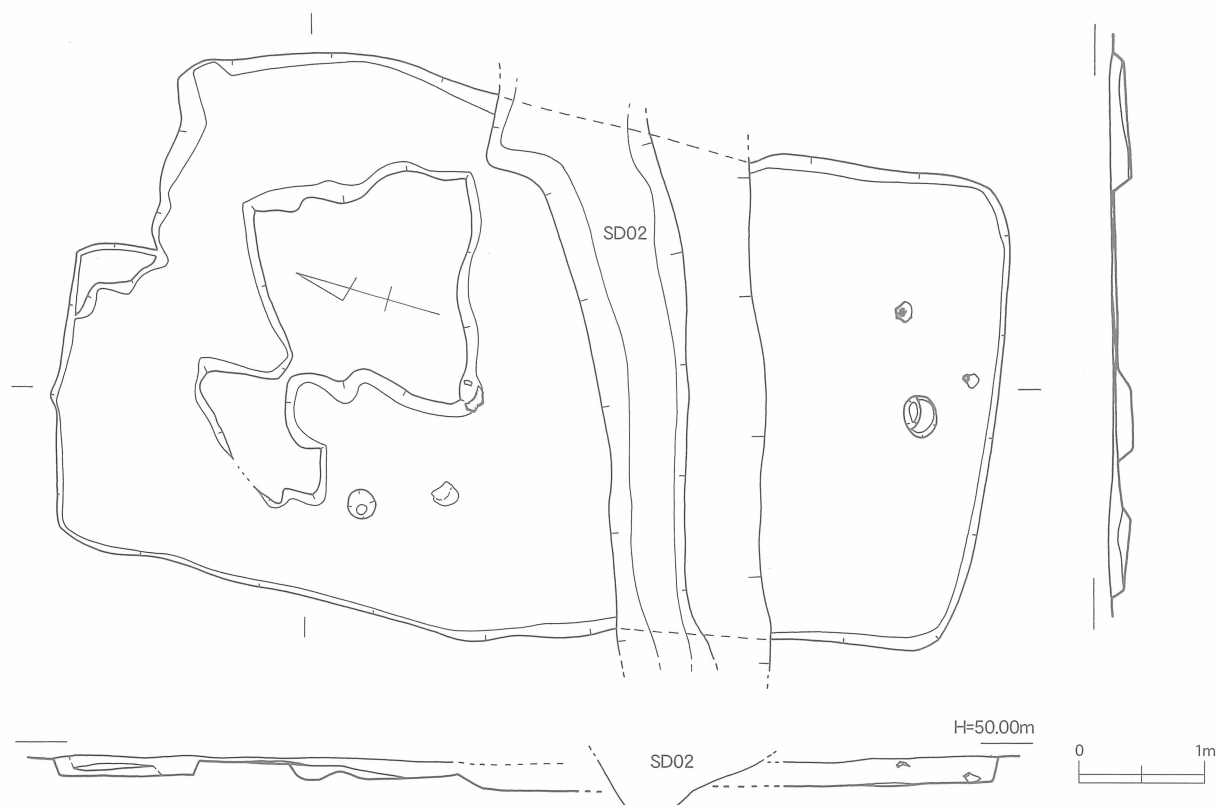
11



12



第47図 竪穴住居(SB16)出土土器実測図 [1/3]



第46図 竪穴住居(SB16)実測図 [1/60]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第47図	SB16	1	須恵器坏身	11.5	4.6	小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	不良	ナデ、 不明	ナデ、 不明	生焼
"	"	2	" 坏身			小石が混る、砂粒を含む	灰色	普通	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ	
"	"	3	" 高坏			小石が混る、砂粒を含む	茶褐色	不良	不明、ヘラ削 り、ハケ目	不明	生焼
"	"	4	" 高坏			小石が混る、砂粒を含む	灰色	普通	カキ目	ヨコナデ	櫛描波状文
"	"	5	" 提瓶			小石が混るが精選される	暗灰色	良好	ヨコナデ、 カキ目	ヨコナデ	
"	"	6	" 提瓶			小石が混るが精選される	暗灰色	良好	カキ目	ヨコナデ、 ナデ	
"	"	7	" 甕	20		小石が混る、砂粒を含む	橙灰色	普通	ヨコナデ、 格目タタキ	ヨコナデ、 青海波状文	
"	"	8	土師器甕	12	15	小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	ハケ目	ヘラ調整	
"	"	9	" 甕	14.6		小石が混る、砂粒を含む	暗褐色	不良	不明	不明、 ヘラ調整	
"	"	10	" 甕	18.4		小石が混る、砂粒を含む	茶褐色	やや不良	不明、 ハケ目	不明、 ヘラ調整	
"	"	11	" 埴			砂粒を含む	茶褐色	普通	ナデ		把手
"	"	12	" 甗			小石が混る、砂粒を含む	茶黄褐色	普通	ナデ		把手

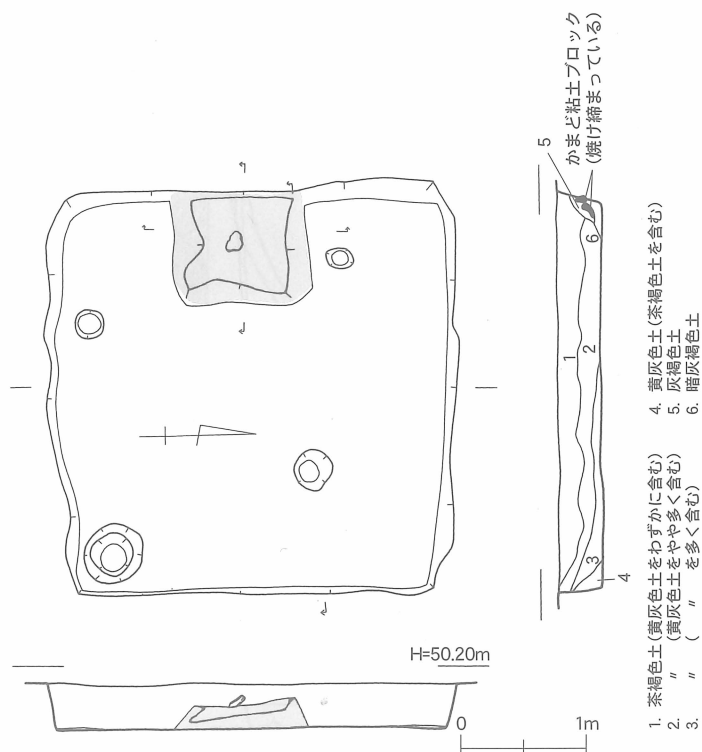
表18 竪穴住居(SB16)出土土器観察表

SB17 (第48・49・50図・表19・図版8)

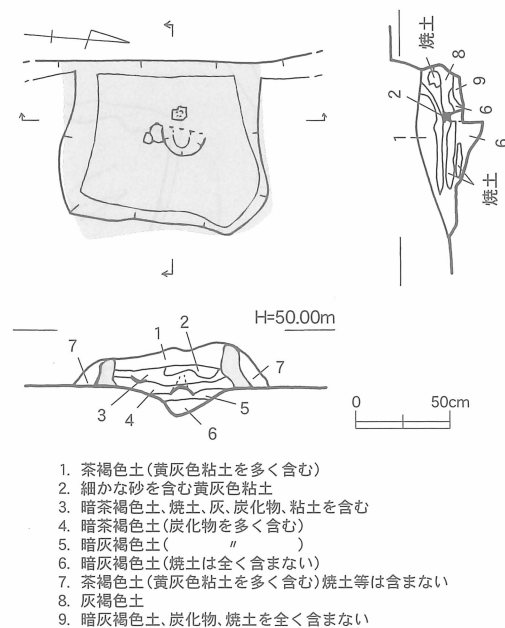
SB17の北側に隣接した南北の長さ3.2m、東西の長さ3.2mの方形の竪穴住居で、非常に残りが良く、壁は40cm程残っている。床面はほぼ平坦で、深さ5-10cm前後のピットがあるが、柱穴と考え難い。北東隅に深さ40cmのピットがあるが、性格は不明である。西壁には竈がつくられており、前面には黄灰色粘土でつくられた両袖と壁面が良く残っている。内部は炭化物や焼土が充満しており、中央部分床面には10cm程掘り込みがあるが、炭化物、焼土は混じらない。また、中央部分

第71図 不明遺構(SX04) 実測図 [1/60]

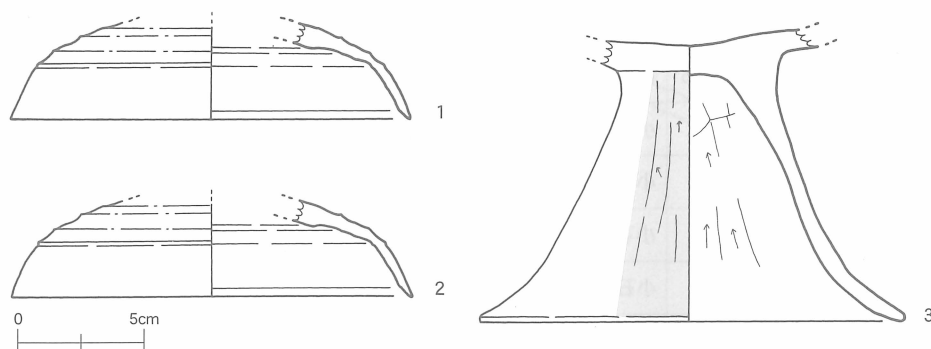
に 土師器高坏脚部を支脚として用いられている。出土遺物として、須恵器坏身、高坏、提瓶、甕、土師器



第48図 竪穴住居(SB17)実測図 [1/60]



第49図 竪穴住居(SB17)竈実測図 [1/40]



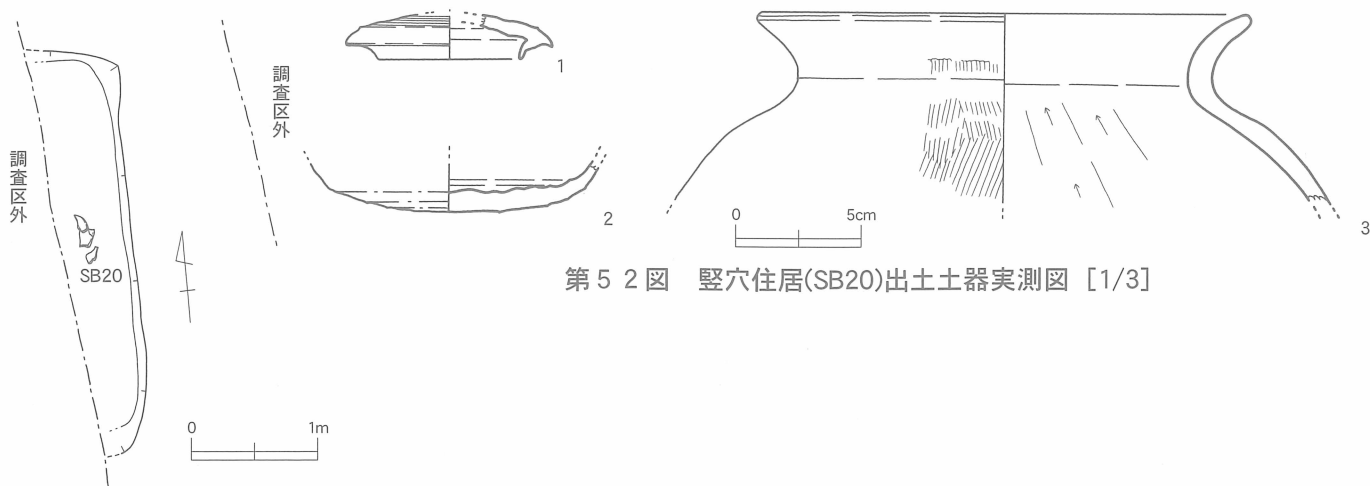
第50図 竪穴住居(SB17)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第50図	SB17	1	須恵器蓋	16		小石、砂が混るが精選される	灰色	良好	回転ヘラ削り、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
"	"	2	" 蓋	16		砂粒を含むが精選される	灰色	良好	回転ヘラ削り、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
"	"	3	弥生高坏脚			砂粒を含む、赤粒子が混る	淡黄褐色	普通	ヘラ調整、磨き	ナデ、ヘラ調整、ヨコナデ	丹塗、磨研土器、中期

表19 竪穴住居(SB17)出土土器観察表

SB20 (第51・52図・表20)

北側に伸ばしたトレンチから発見されたが、方形の竪穴住居で、一部の調査のため規模等は不明であるが、全体に床面まで壁は20cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物として、須恵器の壺蓋、坏身、土師器の甕が出土している。



第52図 竪穴住居(SB20)出土土器実測図 [1/3]

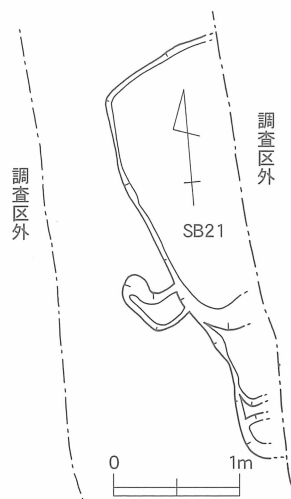
第51図 竪穴住居(SB20)実測図 [1/60]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第52図	SB20	1	須恵器壺蓋	5.6		砂粒を含むが精選される	暗灰色/灰色	良好	カキ目後ナデ、 ヨコナデ	ナデ、 ヨコナデ	
"	"	2	" 坏身			精選されている	淡橙褐色	普通	回転ヘラ削り	回転ナデ、 ヨコナデ	
"	"	3	土師甕	19.2		小石が混る、砂粒を含む	暗黄茶褐色/暗茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ハ ケ目(摩耗)	不明、 ヘラ削り	

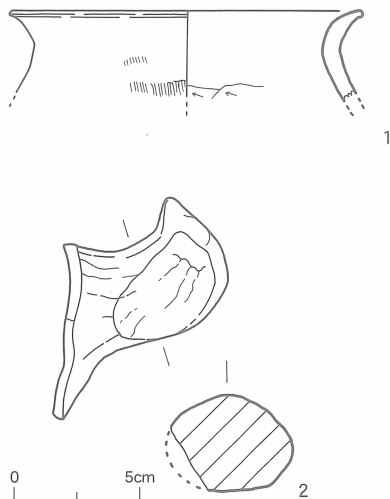
表20 竪穴住居(SB20)出土土器観察表

SB21 (第53・54・55図・表21・22)

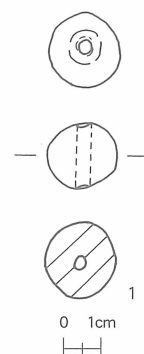
SB20の北側に隣接しており、方形の竪穴住居で、一部の調査のため規模等は不明であるが、全体に床面まで壁は10cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物として、土師器の甕、甕、土製丸玉が1個出土している。



第53図 竪穴住居(SB21)実測図 [1/60]



第54図 竪穴住居(SB21)
出土土器実測図 [1/3]



第55図 竪穴住居(SB21)
出土土製品実測図 [1/2]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第54図	SB21	1	土師甕	14		砂を含む	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ	
"	"	2	" 甕			1~9mm大の小石が混る砂粒	淡黄褐色	やや不良	ナデ、 不明		把手

表21 竪穴住居(SB21)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第55図	SB21	1	土玉	(最大径) 1.9	1.7	細石粒を含む	明黄褐色	やや不良			(孔径)0.4cm

表 2 2 竪穴住居(SB21)出土土製品観察表

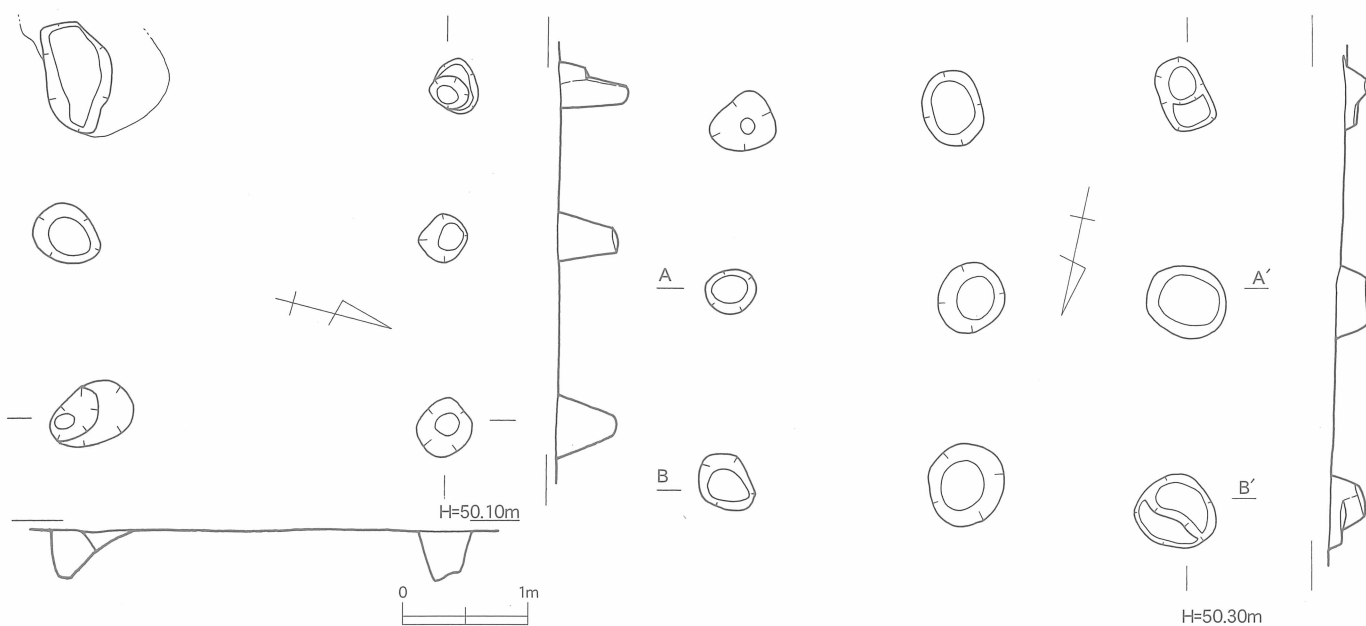
掘立柱建物 (S B)

S B 1 8 (第56図・図版8)

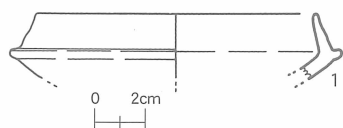
S B 0 8, 1 0, 1 1 に囲まれた位置で発見された。南北1間×東西2間(梁行3.0m、桁行2.6m)ほぼ南北棟の掘立柱建物で、掘り方は直径30-40cm、深さ25-40cm。出土遺物はない。

S B 1 9 (第57・58図・表23・図版8)

南側の空間の南端よりから発見された。ほぼ南北棟で、2間×2間(梁行3.6m、桁行3.1m)ほぼ東西棟の掘立柱建物で、掘り方は直径40-65cm、深さは全体を大きく削平されていたため20-40cm程しか残っていない。出土遺物は須恵器坏身が出土している。



第 5 6 図 掘立柱建物(SB18)実測図 [1/60]



第 5 8 図 掘立柱建物(SB19)出土土器実測図 [1/60]

第 5 7 図 掘立柱建物(SB19)実測図 [1/60]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第58図	SB19	1	須恵器坏身	11		1~4mmの小石混る、精選される	暗灰色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	

表 2 3 掘立柱住居(SB19)出土土製品観察表

土壙（SK）

土壙は調査区のほぼ全域で6基検出された。1基ずつ単独で分布するが、竪穴住居の周辺に集中している。平面形は楕円形や不整形があり、規模は2m－3mの土壙が存在する。多量の遺物を出土する土壙と、ほとんど遺物が出土しない土壙もある。

SK01（第59図・図版9）

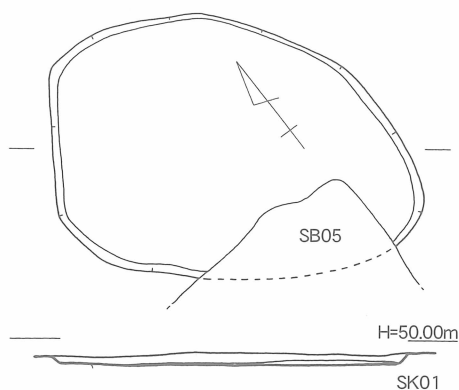
SB05と切り合っているが、前後関係は不明である。削平を受けているため、深さは10cm程しか残っていない。楕円形で長さ2.9m、幅1.9mの土壙。遺物は出土しなかった。

SK02（第60図・図版9）

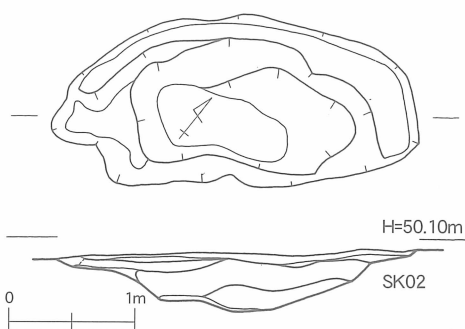
竪穴住居からやや離れた所にあり、楕円形で長さ2.9m、幅1.3mの土壙で、中央部が深さ45cmある。遺物は出土しなかった。

SK03（第61・62図・表24・図版9）

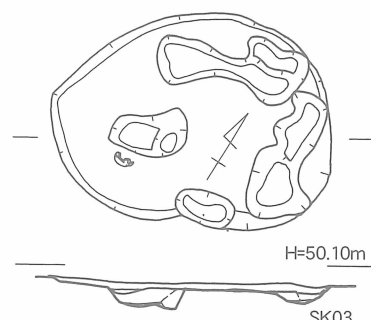
楕円形で長さ2.2m、幅1.6mの土壙、削平を受けているため、深さは5cm程しか残っていない。遺物として土師器坏身がわずかに出土している。



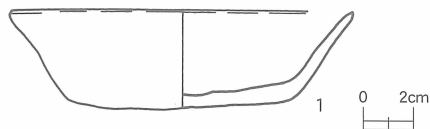
第59図 土壙(SK01) 実測図 [1/60]



第60図 土壙(SK02) 実測図 [1/60]



第61図 土壙(SK03) 実測図 [1/60]



第62図 土壙(SK03) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第62図	SK03	1	土師器坏身	13.5	3.9	小石が混る	明茶色	不良	不明、 ヘラ切り	ヨコナデ、 ナデ	

表24 土壙(SK03)出土土器観察表

SK04（第63図・図版9）

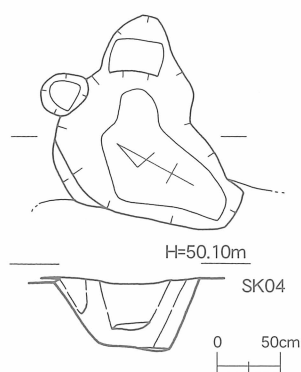
不整形で長さ1.6m、幅1.3mのやや小型土壙で、深さは60cmあり、底面は平坦である。遺物は出土しなかった。

S K 0 5 (第64・65図・表25・図版10)

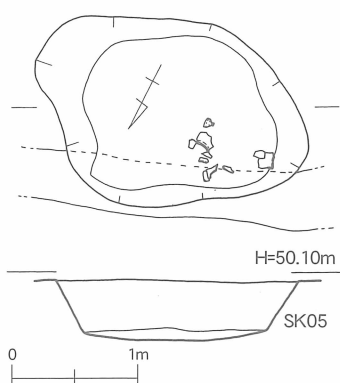
楕円形で長さ1.9m、幅1.5mの土壌で、深さは45cm程あり、底面は平坦である。遺物として須恵器坏身と土師器甕が少量出土している。

S K 0 6 (第66・67図・表26・図版10)

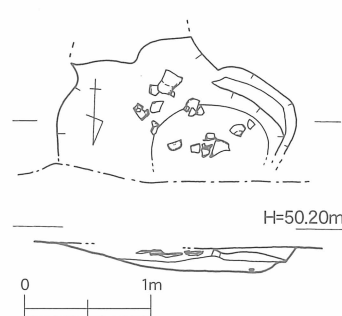
北側端で発見されたため一部の調査しかできなかった。このため、平面形は不明であるが長さ1.8m、幅1.2+αmの小型土壌。遺物として須恵器坏蓋、高坏、土師器甕、弥生後期の壺等が多く出土している。



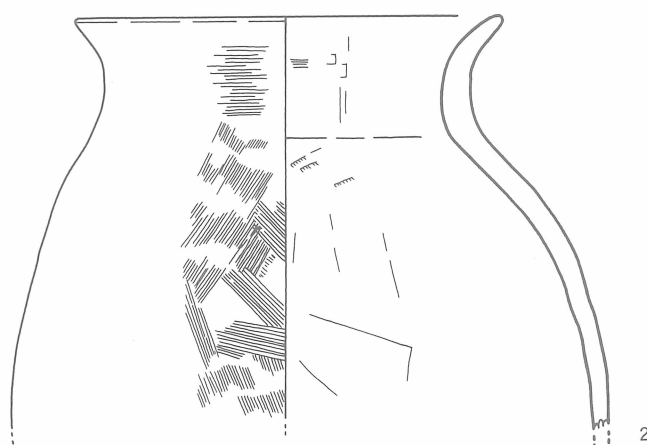
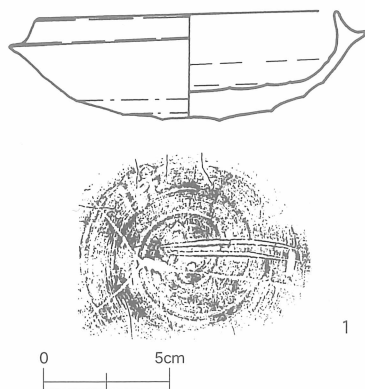
第63図 土壌(SK04) 実測図 [1/60]



第64図 土壌(SK05) 実測図 [1/60]



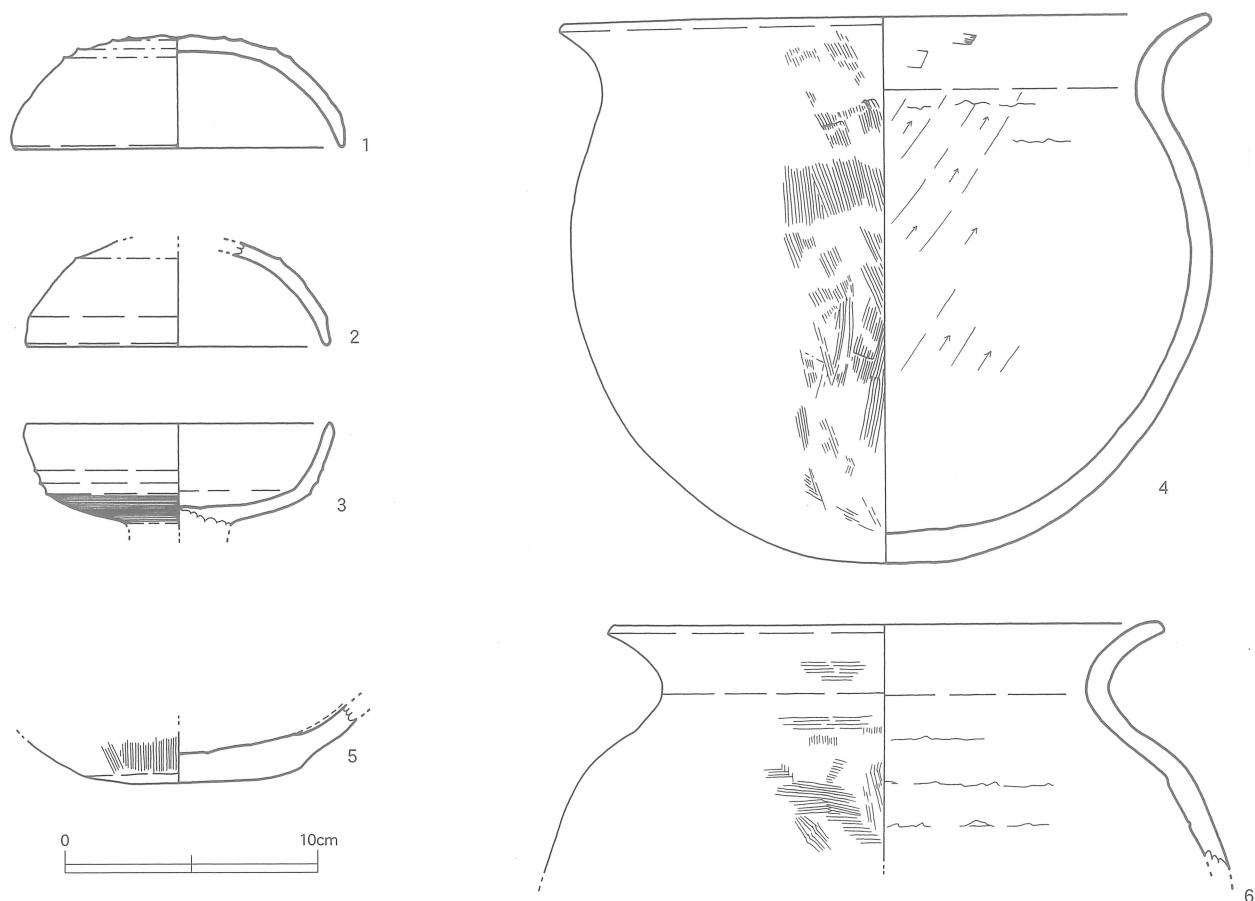
第66図 土壌(SK06) 実測図 [1/60]



第65図 土壌(SK05) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第65図	SK05	1	須恵器坏身	11.9	4.1	小石が混るが精選される	暗茶灰褐色		ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ、 回転ナデ	
"	"	2	土師器甕	16.8		砂粒を含む	黄茶褐色/黄褐色	普通	ヨコナデ後 ハケ目	ハケ目、 ヘラ調整	黒班有り

表25 土壌(SK05)出土土器観察表表



第 6 7 図 土墳(SK06) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第67図	SK06	1	須恵器蓋	13	4.4	小石が混るが精選される	暗黄灰褐色/暗灰茶褐色		回転ヘラ削り、 ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	2	" 蓋	11.8		小石が混るが精選される	暗灰色/暗赤灰色	良好	回転ヘラ削り、 ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	3	" 高坏	12		小石が混る、砂粒を含む	暗灰茶褐色/暗灰色		ヨコナデ、 カキ目	ヨコナデ、 ナデ	
"	"	4	土師器甕	25.6	21.6	小石が混る、砂粒を含む	黄茶灰褐色/黄茶褐色	普通	ハケ目後ヨコ ナデ、ハケ目	ハケ目、 ヘラ削り	黒班有り
"	"	5	弥生壺			小石が混る、砂粒を含む	茶褐色/黄褐色	やや不良	ハケ目、 ナデ	不明	後期
"	"	6	土師器甕	21.6		小石が混る、砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ハケ目	不明、 ヘラ調整	黒班有り、内面 に輪痕有り

表 2 6 土墳(SK06)出土土器観察表

不明遺構 (S X)

S X 0 1 (第68図)

不整形で、床面は東から西方向に傾斜している。長さ2.3m、幅0.9mの土壇。遺物は出土しなかった。

S X 0 2 (第69図)

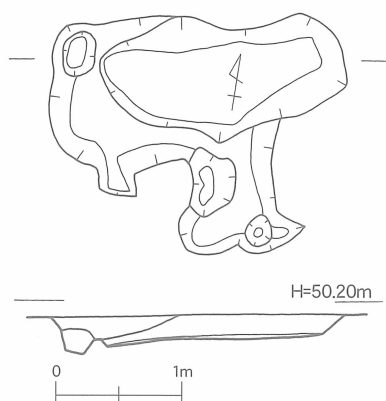
S D 0 4 と切合っている。楕円形で長さ2.1m、幅1.2mの小型土壇。遺物は出土しなかった。

S X 0 3 (第70図)

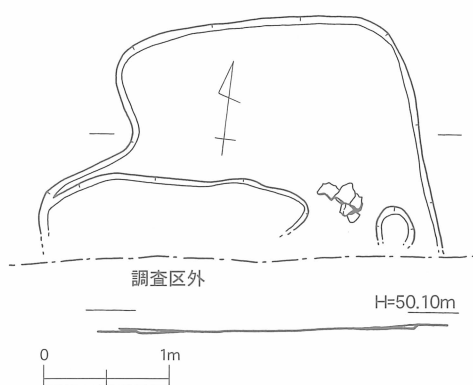
南側の大半、未調査部分については不明である削平のためか、0-2cmとかなり残っていた。形は不明で長さ3.0m、幅1.7+αmの土壇。遺物として土師器甕がわずかに出土している。

S X 0 4 (第71図)

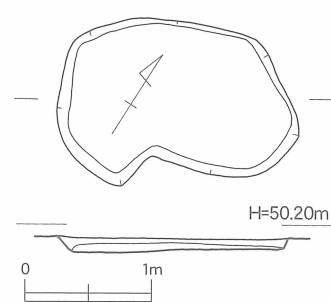
楕円形で長さ1.9m、幅1.1mの小型土壇。遺物として、甕形土器が少量出土している。



第68図 不明遺構(SX01)
実測図 [1/60]

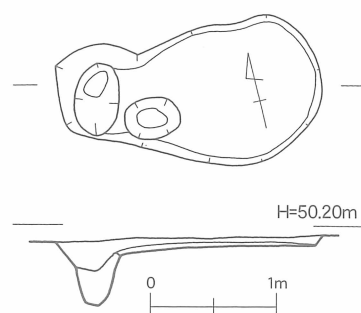


第70図 不明遺構(SX03)実測図 [1/60]



第71図 不明遺構(SX04)
実測図 [1/60]

第69図 不明遺構(SX02)
実測図 [1/60]

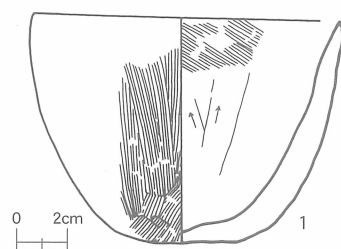


溝 (S D)

竪穴住居は調査区のほぼ全体から、5条の溝が発見された。いずれも、東西方向に流れている。

S D 0 1 (第72・77図・表27・図版11)

調査区のほぼ東から西側に流れる溝で、中央付近でわずかにカーブする。溝の幅は40-50cm、溝底の幅も35-40cmとほぼU字型で垂直な壁である。溝内の堆積土は底付近では自然に堆積した痕跡が見られるが、上層の黒褐色土は一挙に埋めた可能性がある。溝を切ってS B 0 8・13、S K 0 5がつけられている。遺物は少なく土師器の鉢が出土しているにすぎない。



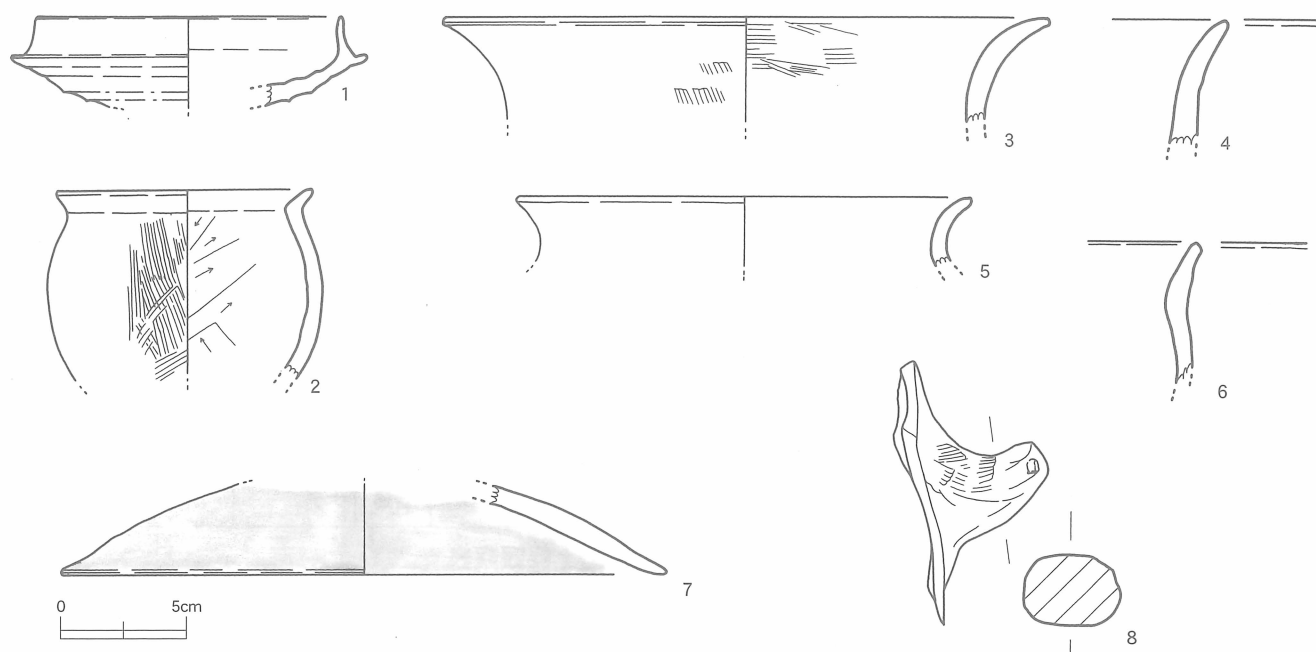
第72図 溝(SD01)出土土器
実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第72図	SD01	1	土師器鉢	12.1	9	砂粒を含む	暗黄黒褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ハケ目、ヘラ 調整後ナデ	黒班有り

表 2 7 溝(SD01)出土土器観察表

S D 0 2 (第73・77図・表28・図版11)

調査区のほぼ東から西側に流れる溝で、中央付近で幅1.3mの陸橋部が存在する。溝の幅は50-60cm、溝底の幅も20-30cmとほぼ逆台形型である。溝内堆積土は自然に堆積した痕跡が見られる。西側では溝を切ってSB07がつくられ、東側では溝がSB16を切っている。遺物として須恵器坏身、土師器甕、甌、弥生中期の丹塗磨研壺等が多く出土している。



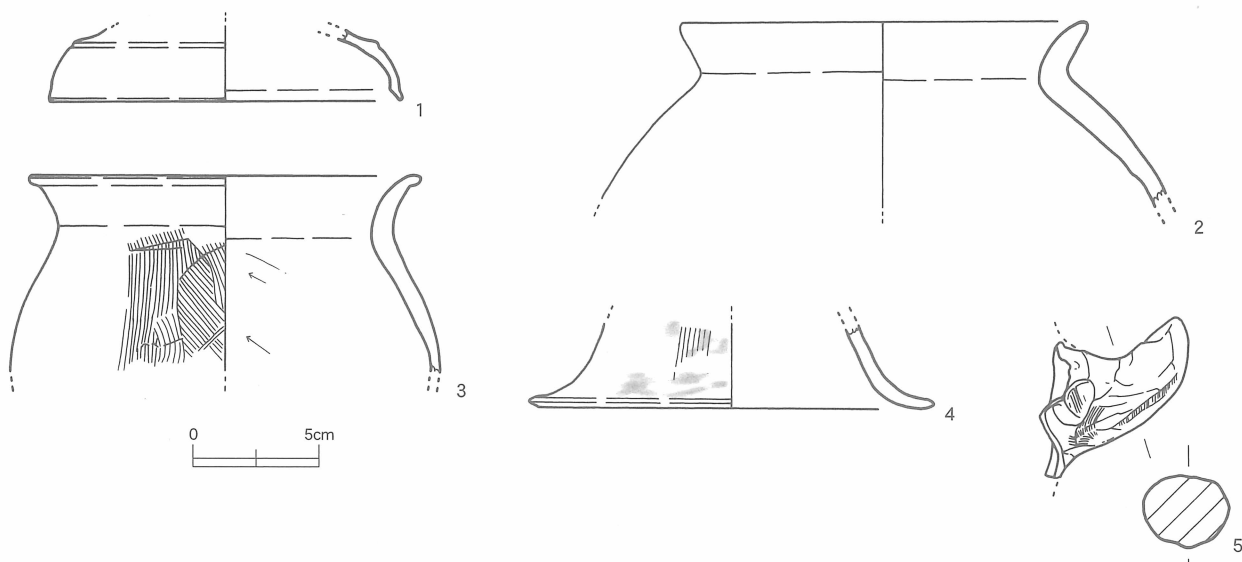
第 7 3 図 溝(SD02) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第73図	SD02	1	須恵器坏身	12		小石が混るが精選される	灰色	良好	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ	
"	"	2	土師器甕	10		小石が混る、砂粒を含む	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"	"	3	" 甕	14		小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	不明、 ハケ目	ハケ目、 ヘラ調整	
"	"	4	" 甕			小石が混る、砂粒を含む	黄褐色	やや不良	不明、 ハケ目	不明	細片
"	"	5	" 甕	18		小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	6	" 甕			砂粒を含む	淡褐色	やや不良	不明	不明	細片
"	"	7	弥生壺蓋	24		砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	丹塗、磨研、 中期
"	"	8	土師器甌			小石が混る、砂粒を含む	暗黄褐色	やや不良	不明、ハケ 目、ナデ		把手

表 2 8 溝(SD02)出土土器観察表

S D 0 3 (第74・77図・表29・図版11)

調査区のほぼ東から西側に流れる溝で、東側でSB02と切り合うが、先後関係は検出できなかった。溝の幅は60cm前後、溝底の幅も50cmとほぼU字型である。溝内堆積土は自然に堆積した痕跡が見られる。東側ではSB02と共にSB16を切っている。遺物として須恵器坏蓋、土師器甕、甌、弥生中期の丹塗磨研高坏等が多く出土している。



第74図 溝(SD03)出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第74図	SD03	1	須恵器坏蓋	14		小石が混る、砂粒を含む	暗黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
"	"	2	土師器甕	16		小石が混る、砂粒を含む	茶黄褐色/黄灰褐色	不良	不明	不明	
"	"	3	" 甕	15.4		小石が混る、砂粒を含む	茶黄暗灰色/暗茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヘラ調整	
"	"	4	弥生高坏	(底径) 16		小石が混る、砂粒を含む	黄褐色	不良	ハケ目	不明	丹塗、磨研、 中期
"	"	5	土師器甕			小石が混る、砂粒を含む	茶褐色	普通	ナデ		把手

表29 溝(SD03)出土土器観察表

SD04 (第75・77図・表30・図版11)

SB13に接して東から西側に流れる溝で、削平のためか6mはどし検出できなかった。溝の幅は20-30cmで、深さも10cm程残っているにすぎない。溝底もほぼ逆台形型である。溝内堆積土は自然に堆積した痕跡が見られる。西側では溝を切ってSB07がつくられ、東側では溝がSB16を切っている。遺物として須恵器坏身が、わずかに出土している。



第75図 溝(SD04)出土土器実測図 [1/3]



第76図 溝(SD05)出土土器実測図 [1/3]

SD05 (第76図・表31)

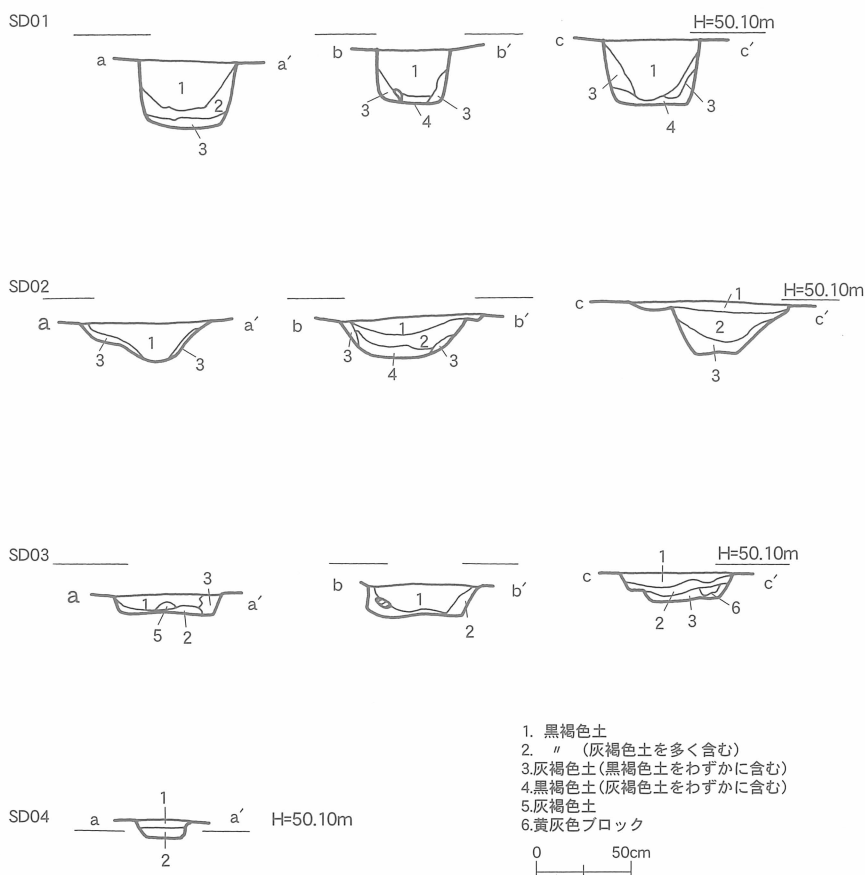
調査区の西側から北側に延ばしたトレンチ内で発見された。東から西側に流れる溝で、溝の幅は50cm前後で、深さも10cm程残っているにすぎない。溝底もほぼ逆台形型である。遺物として須恵器坏身が、わずかに出土している。

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第75図	SD04	1	須恵器坏身	11.4		小石が混るが精選される	灰褐色/淡灰色	良好	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ	

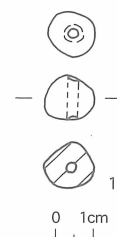
表30 溝(SD04)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第76図	SD05	1	須恵器坏身	11.6	4.2	小石が混るが精選される	乳黄灰褐色/淡灰褐色		ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ回 転ナデ	生焼

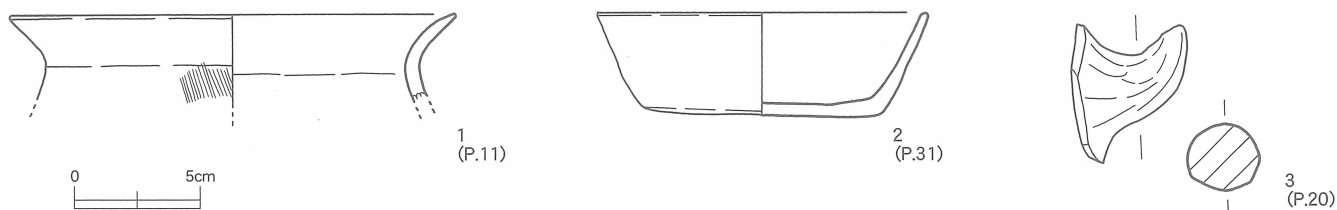
表 3 1 溝(SD05)出土土器観察表



第 7 7 図 溝(SD01・02・03・04)土層図 [1/40]



第 7 9 図
表採出土土製品
実測図 [1/2]



第 7 8 図 Pit(11・20・31) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第78図	P.11	1	土師器甕	17.6		砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、 ハケ目	不明	
"	P.31	2	土師器坏	13.1	4	小石が混る、砂粒を含む	淡黄茶褐色	やや不良	ナデ	ナデ	
"	P.20	3	" 甕			小石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	ナデ		把手

表 3 2 pit出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第79図	表採	1	土玉	(最大径) 1.3	1.2	細砂粒を含む	茶褐色	普通			(孔径)0.3cm

表 3 3 表採出土土製品観察表

2 次調査

擁壁掘削部を中心として幅約2mのトレンチを、南北に長さ80m、東西に30m設定して調査を実施した。調査の結果、南北のトレンチから古墳時代の竪穴住居6棟、土壇1基、溝5条が、東西のトレンチから竪穴住居2棟、土壇2基が検出された。調査地区の南側が削平されており、竪穴住居の残りが悪いが、北側ほど遺構の残りが良い。

竪穴住居

竪穴住居はトレンチのほぼ全体から、方形の竪穴住居8軒が発見されているが、その多くは竪穴住居の一部だけの調査であるため不明な点が多いが、いずれも方形の竪穴住居で、竈は検出できなかった。

S B 2 2 (第80・81図・表34・図版15)

東西トレンチから発見されたが、方形の竪穴住居で、一部の調査のためや攪乱をうけており、規模等は不明である。西側壁に接して焼土が残るが竈ではない。全体に床面まで壁は10cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物として、須恵器の坏身、甕が出土している。

S B 2 3 (第80・81図・表35・図版15)

S B 2 2 に隣接しており、方形の竪穴住居で、一部の調査のため規模等は不明であるが、全体に床面まで壁は5-15cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は確認できなかった。出土遺物として、須恵器の坏蓋、土師器の高坏、甕が出土している。

S B 2 4 (第80・81図・表36・図版15)

南北トレンチから発見されたが、方形の竪穴住居で、一部の調査のため全体の規模等は不明であるが、南北の長さ4.6mの竪穴住居、全体に床面まで壁は15cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物として、須恵器の平瓶が出土している。

S B 2 5 (第80・81図・表37・図版15)

S B 2 4 の北側に隣接しており、方形の竪穴住居で、一部の調査のため規模等は不明であるが、全体に床面まで壁は10cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物としては、須恵器の隙が出土している。

S B 2 6 (第80図・図版16)

S B 2 5 の北側に隣接しており、方形の竪穴住居で、一部の調査のため規模等は不明であるが、全体に床面まで壁は5cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、遺物は出土しなかった。

S B 2 7 (第80・81図・表38・図版16)

南北トレンチのほぼ中央に検出された方形の竪穴住居で、住居のほぼ中央にあたる。一部の調査のため不明な部分が多いが、南北の長さ5.9mとやや大型の方形竪穴と思われる。北壁寄りに柱穴と思われるpitがあるが、全体は不明である。住居全体に床面まで壁は15cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物として須恵器の坏蓋・身、高坏、土師器の甕、鉢、弥生後期の器台が出土している。

S B 2 8 (第80・81図・表39・図版16)

南北に伸ばしたトレンチから発見されたが、住居のほぼ中央にあたる。一部の調査のため不明な部分もあるが、南北の長さ5.9mとやや大型の方形竪穴と思われる。南壁寄りに柱穴と思われる深さ25cmのpitがあるが、配置は不明。全体に床面まで壁は20cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、出土遺物として、須恵器の高坏、土師器の甕が出土している。

S B 2 9 (第80図・図版16)

南北に伸ばしたトレンチから発見されたが、住居の西端にあたる。一部の調査のため不明な部分もあるが、南北の長さ4.8mとやや大型の方形竪穴と思われる。全体に床面まで壁は15-20cm程度残っている。床面はほぼ平坦で、遺物は出土しなかった。

土壙 (S K)

土壙は調査区のほぼ全域で3基検出された。1基ずつ単独で分布するが、竪穴住居の周辺に集中している。平面形は楕円形で、規模は2m-3mの土壙が存在する。多量の遺物を出土する土壙と、ほとんど遺物が出土しない土壙もある。

S K 0 7 (第80図・図版17)

東西トレンチで検出された。削平を受けているため、深さは5cm程しか残っていない。楕円形で長さ1.1m、幅0.7mの土壙。遺物は出土しなかった。

S K 0 8 (第80図・図版17)

S B 2 7に隣接して検出された。楕円形で長さ1.35m、幅0.6m+ α の土壙で、中深さ15cmある。遺物は出土しなかった。

S K 0 9 (第80図・図版17)

南北トレンチから検出された。楕円形で長さ1.5m+ α 、幅1.05mの土壙で、中央部が深さ45cmある。遺物は出土しなかった。

溝 (S D)

溝は南北トレンチから、5条の溝が発見された。いずれも、東西方向に流れており、1次調査で検出された溝に続く溝もある。

S D 0 6

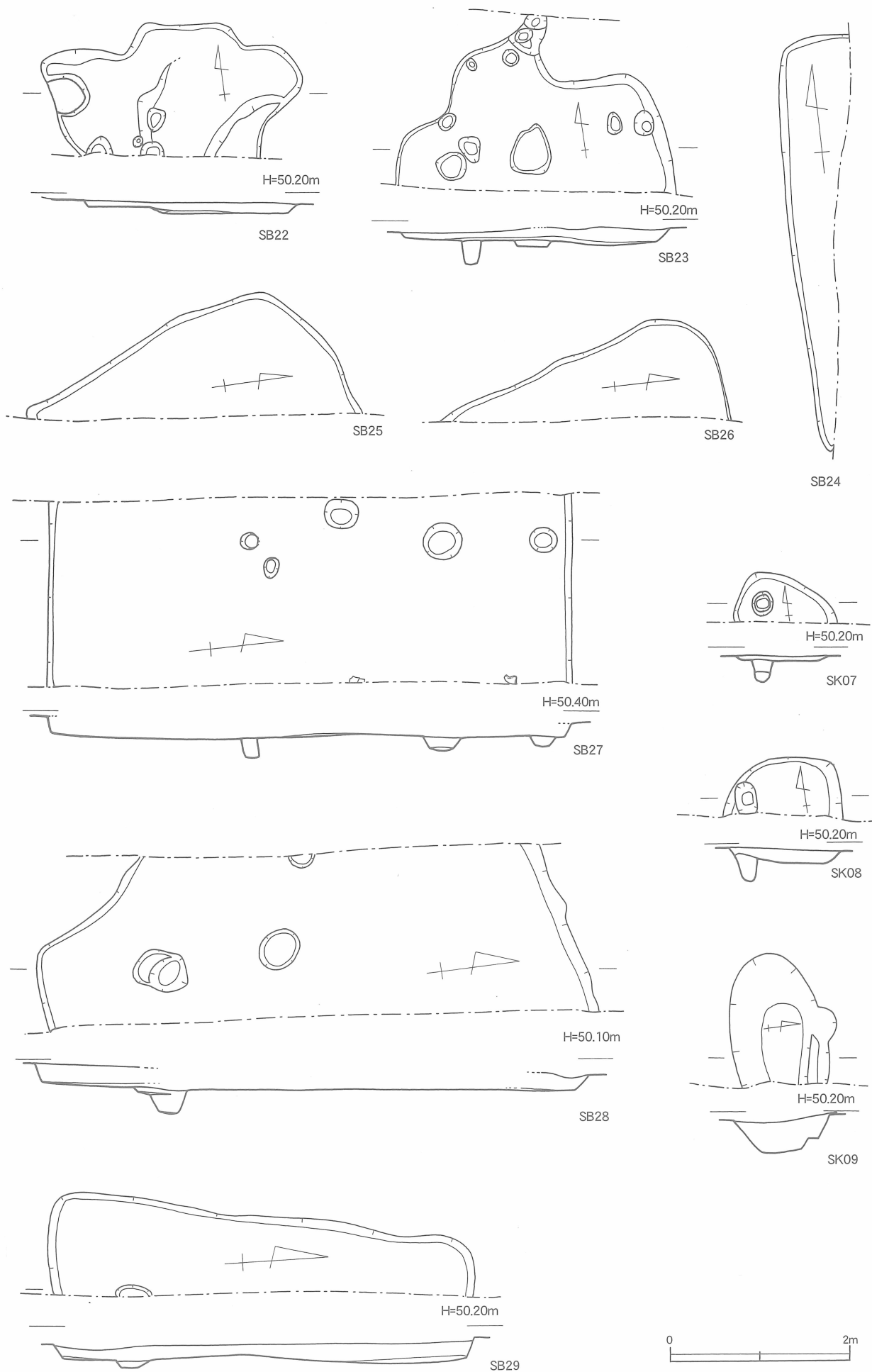
ほぼ東西に流れる溝で、中央付近でわずかにカーブする。溝の幅は60cm、溝底の幅も40cmとほぼU字型で垂直な壁である。遺物は出土しなかった。

S D 0 7

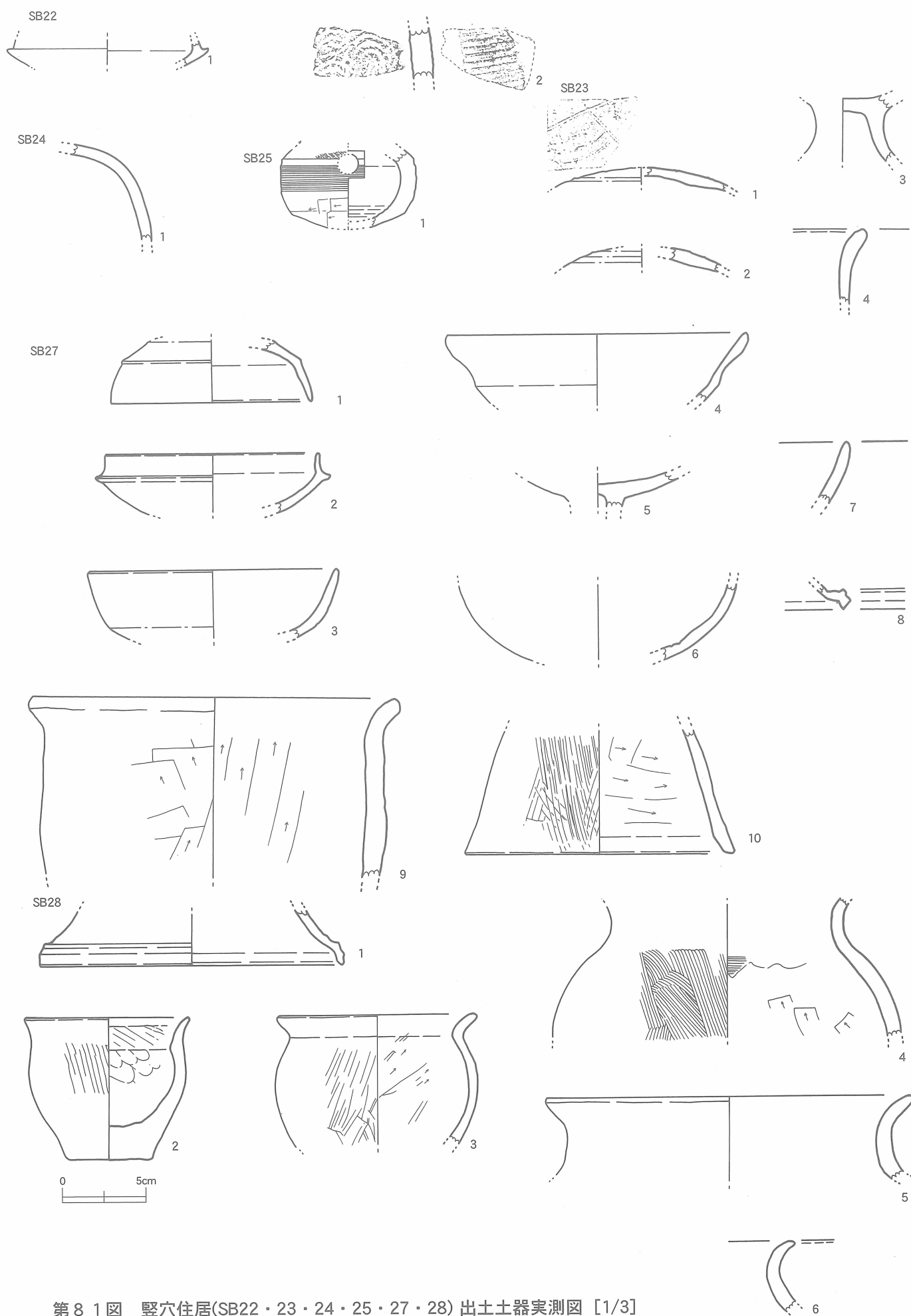
東西に流れる溝で、溝の幅は50cm、溝底の幅も40cmとほぼ逆台形型である。遺物は出土しなかった。

S D 0 8

ほぼ東西に流れる溝で、第1次調査で検出したS B 0 2と続くとも考えられる。溝の幅は60-110



第 8 0 図 竪穴住居(SB22・23・24・25・26・27・28・29)土壇(SK07・08・09)実測図 [1/60]



第 8 1 図 竪穴住居(SB22・23・24・25・27・28) 出土土器実測図 [1/3]

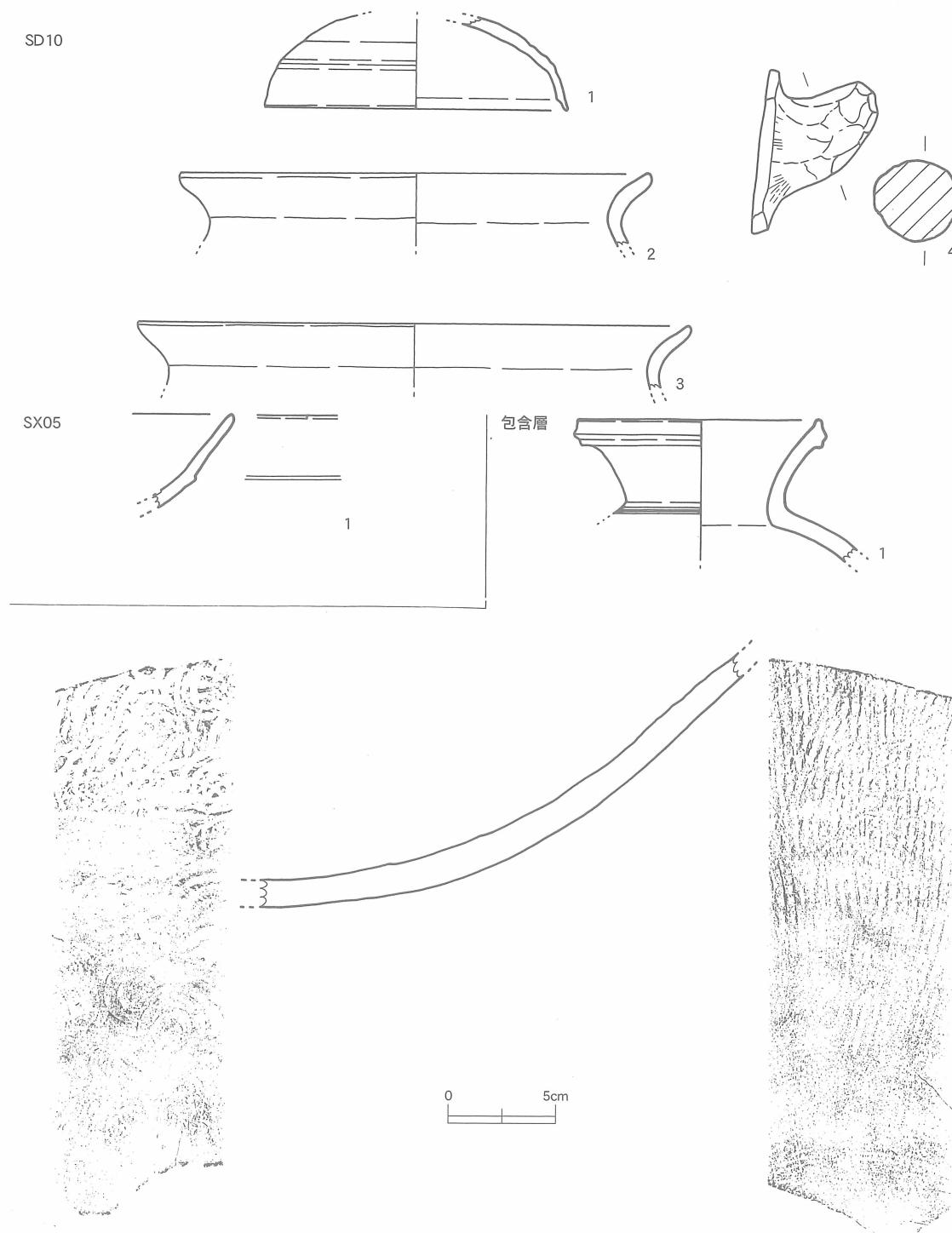
c m前後、溝底の幅も60-70cmとほぼU字型である。遺物は出土しなかった。

SD09

東西に流れる溝で、溝の幅は80-100cmで、深さも10cm程残っているにすぎない。溝底もほぼ逆台形型である。遺物は出土していない。

SD10 (第82図・表40)

南北トレンチの北端で発見された。東西に流れる溝で、溝の幅は4.0m前後で、溝の形態もV字状となり、深さも1m前後と深い。遺物として須恵器坏身、土師器甕、甑の把手が出土している。



第82図 溝(SD10) 不明遺構(SX05) 包含層出土土器実測図 [1/3]

不明遺構（S X）

S X 0 5（第82図・表41）

S D 1 0 に隣接しており、隅丸長方形のため、竪穴住居とも思われたが、床面が西側と北側に緩く傾斜しており、竪穴住居とは考え難い。遺物として須恵器高坏がわずかに出土した。

包含層（第82図・表42）

東西・南北トレンチの表土下に、10cm程茶褐色の包含層が存在した。出土した遺物は須恵器提瓶、大甕があり、ほとんど下層の竪穴住居等からのものである。

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第81図	SB22	1	須恵器坏身	不明	不明	細砂粒を含む	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、 不明	不明	
"	"	2	" 甕	"	"	精選されている	暗灰色/灰色	良好	格目タタキ	青海波状文	

表 3 4 竪穴住居(SB22)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第81図	SB23	1	須恵器坏蓋	不明	不明	精選されている	灰色	良好	回転ヘラ削り	ナデ	天井部ヘラ記号
"	"	2	"	"	"	精選されている	淡灰茶色	良好	回転ヘラ削り	ナデ	
"	"	3	土師器高坏	"	"	砂粒を含む、赤粒子が混る	暗茶褐色	やや不良	ナデ、 不明	ナデ	
"	"	4	" 甕	"	"	1~3mm大の小石が混る 砂粒を含む	淡黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、 不明	ヨコナデ、 不明	

表 3 5 竪穴住居(SB23)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第81図	SB24	1	須恵器平瓶	不明	不明	1~3mm大の小石が混るが 精選されている	暗灰茶褐色/灰色	良好	カキ目、 タタキ	ヨコナデ	

表 3 6 竪穴住居(SB24)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第81図	SB25	1	須恵器罍	不明	不明	1~2mm大の小石が混るが 精選されている	灰色	良好	カキ目、ヨコナデ、 手持ヘラ削り	ヨコナデ	胴部径8.0 沈線

表 3 7 竪穴住居(SB25)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第81図	SB27	1	須恵器坏蓋	12		1~4mm大の小石が混る 細砂粒を含む	明黄褐色	やや不良	回転ヘラ削り、 ナデ、ヨコナデ	ナデ、 ヨコナデ	
"	"	2	" 坏身	12.5		砂粒を含む	淡黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、 不明	不明	生焼
"	"	3	" 高坏	14.8		1~4mm大の小石が混る 砂粒を含む	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、回 転ヘラ削り	ヨコナデ	
"	"	4	土師器高坏	17.8		細砂粒を含む	黄褐色	不良	不明	不明	
"	"	5	須恵器高坏			小石が混る、砂粒を含む	明茶褐色	やや不良	不明	ナデ	
"	"	6	" 高坏			砂粒を含む	赤茶灰褐色/淡黄褐色	やや不良	不明	不明	沈線
"	"	7	土師器鉢			細砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデのちへ ラ調整	
"	"	8	須恵器高坏			砂粒を含む	淡茶褐色	やや不良	ヨコナデ、 不明	不明、 ヨコナデ	
"	"	9	土師器甕	21.6		1~5mm大の小石が混る 砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ヘラ調整	ヨコナデ、 ヘラ削り	
"	"	10	弥生器台	(底径) 16		1~3mm大の小石が混る 砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ハケ目	ヘラ削り、 ナデ	

表 3 8 竪穴住居(SB27)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第81図	SB28	1	須恵器高坏	(底径) 18		1~3mm大の小石が混る 砂粒を含む、赤粒子が混る	淡黄褐色	やや不良	不明	不明	
"	"	2	土師器甕	9.8	8.4	1~4mm大の小石が混る 砂粒を含む	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハ ケ目、ナデ	ハケ目、 指ナデ	黒班有り
"	"	3	"	11.6		1~5mm大の小石が混る 砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ヘラ削り	
"	"	4	"			1~7mm大の小石が混る 砂粒を含む	淡黄茶褐色/淡茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ハケ目、ヘラ 削り、ナデ	黒班有り
"	"	5	"	21.6		1~3mm大の小石、赤粒子、 黒曜石が混る、砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
"	"	6	"			1~4mm大の小石が混る 砂粒を含む	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、 ハケ目	ハケ目	

表 3 9 竪穴住居(SB28)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第82図	SD10	1	須恵器坏蓋	14		細砂粒を含むが精選され ている、赤粒子が混る	淡黄褐色	やや不良	不明	不明	
"	"	2	土師器甕	22		1~3mm大の小石が混る 砂粒を含む、赤粒子が混る	黄茶褐色	やや不良	不明	不明	
"	"	3	"	26		1~3mm大の小石が混る 砂粒を含む	黄茶褐色	不良	不明	不明	
"	"	4	甌			1~3mm大の小石が混る 砂粒を含む、赤粒子が混る	明黄褐色	やや不良	ハケ目のち ナデ	ハケ目	把手

表 4 0 溝(SD10)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第82図	SX05	1	須恵器高坏			1~6mm大の小石が混る 砂粒を含む	暗黄褐色/淡茶褐色	不良	不明	不明	焼きき不良 沈線

表 4 1 不明遺構(SX05)出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 類	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
									外 面	内 面	
第82図	包含層	1	須恵器提瓶	11.1		精選されている	灰色	良好	ヨコナデ カキ目	ヨコナデ、 ナデ	
		2	" 大甕			1~7mm大の小石が混るが 精選されている	淡黄褐色	やや不良	格目タタキ、 ハケ目	青海波状文	生焼

表 4 2 包含層出土土器観察表

5. まとめ

榎町遺跡1次、2次調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居27軒、掘立柱建物2棟、土壇9基、溝10条が発見された。

1次調査では竪穴住居が19軒、調査区のほぼ全域から検出されたが、住居同士の切り合いはほとんど無いが、近接した住居があるため、少なくとも二時期にわたって集落が営まれている。一時期に何軒竪穴住居が存在したかは判明しないが、東西に延びる溝の埋没後に竪穴住居を作っている。また、調査区の南側に南北約12m、東西約30m間に遺構がほとんどない空間が存在しており、空間南側に総柱の掘立柱建物がする。このため、集落内の共同の広場としての可能性もある。

竪穴住居の規模は一辺4m前後で、方形を呈しているものが約9割を占めており、残り1割は長方形を呈している。その中で、最も大きいものはSB16で、4.3×7.3mあり、竈を有していず、竈を有した竪穴住居と異なった用途に使用されたものと思われる。

また、竪穴住居の壁の一方に竈を有するものが大半で、その設置方向も2基を除いてすべて北側に設置されている。

竈の構造は大きく二種類あり、

○ 壁を大きく掘り込んで袖を持たない竈 (SB02、04)

○ 壁をほとんど掘り込まず袖を有する竈 (SB03、05、07、08、11、12、13、15) があるが、時期的な差はほとんど見られない。

床面には4本の柱穴を有する竪穴住居が6割、と無柱の竪穴住居が4割あるが、規模や時期的な差は認められない。

土壇は6基、竪穴住居に近接して発見されており、楕円形を呈するものが多い、SK05からは多量の土器が出土している。出土遺物からの時期的な差は認められない。

溝は5条発見されたが、東西方向にわずかにカーブを描くが、ほぼ直線に延びている。

SD02は途中1.5m程の陸橋部があり、通路として利用されたとも考えられる。

溝の高低差から見ると東から西へわずかながら低くなっており、東から西に流れていたものと思われる。溝の時期は遺物からは差は認められないが、SB07、08、13は溝の埋没後に作られ、溝が竪穴住居に先行して作られていた可能性がある。

出土遺物は須恵器、土師器が多いが、竪穴住居の竈や竈周辺からの出土が多い。遺物の特徴としては、須恵器の量も多いが、焼成不良で赤褐色を呈した須恵器が多いことが注目される。

古墳時代後期の集落としては榎町遺跡のほか、矢部川下流1.5kmにある高野町遺跡で46軒、また、4km下流の淵の上遺跡では23軒、南中学校校庭遺跡で13軒もの竪穴住居が発見されており、矢部川の自然堤防上に点々と集落が確認されている。

竪穴住居に付属する竈の位置はほぼ北側で共通するが、榎町遺跡と高野町遺跡の竪穴住居の規模を比較すると、表43のとおり、榎町遺跡では面積が10-15m²に集中する反面、高野町遺跡では10-30m²を中心に大型の竪穴住居が目立っている。遺物の面から比較しても、須恵器、土師器を中心とした榎町遺跡より、高野町遺跡では須恵器の大型器台や土製模造品、滑石製の子持勾玉も出土しており、集落として対比できよう。

榎町遺跡の北側には八女丘陵が迫っており、丘陵上には多くの後期古墳が築かれている。北側500mには日迫山古墳群(19基)、東館古墳群(9基)、童男山古墳群(27基)があり、八女古墳群中最も、後期の古墳が群集する地域である。しかし、今回の調査では直接古墳群との繋がりを解明できるものは確認できなかったが、古墳群の眼下に広がる星野川、矢部川の自然堤防上に古墳時代後期の大集落が、点々とする姿が見えてきたような気がする。

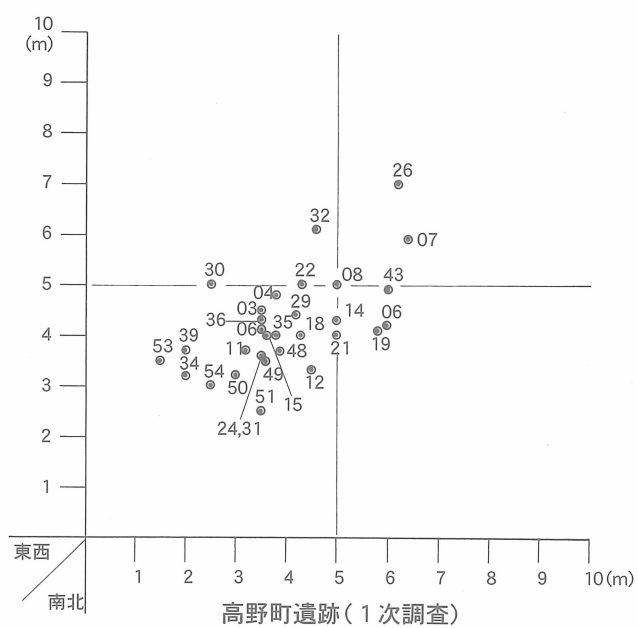
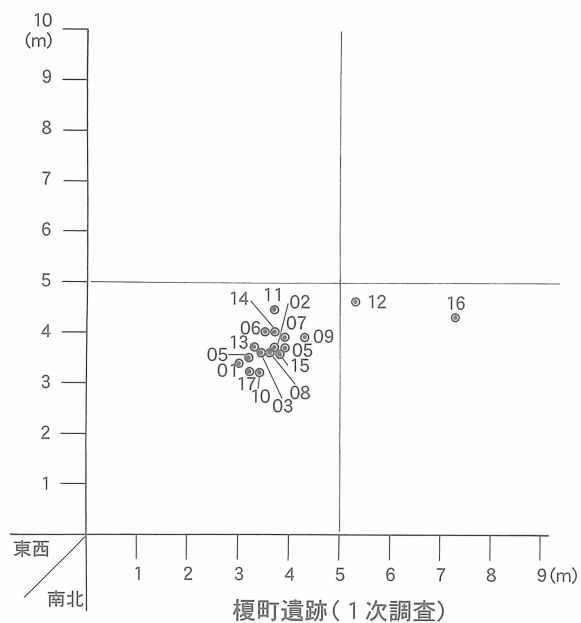


表 4 3 榎町遺跡・高野町遺跡竪穴住居規模比較表

図版 (P L A T E S)



(1) 榎町遺跡 1 次調査発掘前風景 (北より)



(2) 榎町遺跡 1 次調査発掘前風景 (南東より)



(1) 榎町遺跡 1次調査発掘後全景 (南より)



(2) 榎町遺跡 1次調査発掘後全景 (北より)



(1) 榎町遺跡 1次調査全景 (上空より)



(1) SB 0 1



(3) SB 0 3



(2) SB 0 2



(4) SB 0 4



(1) SB05



(3) SB07



(2) SB06



(4) SB08



(1) SB 09



(3) SB 11



(2) SB 10



(4) SB 12



(1) SB 13



(3) SB 15



(2) SB 14



(4) SB 16



(1) SB 17



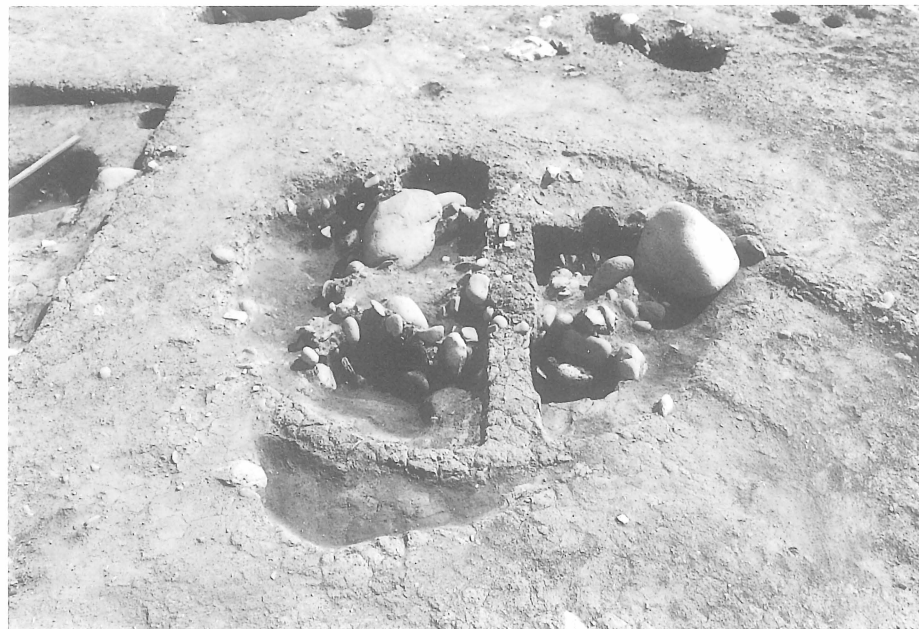
(3) SB 19



(2) SB 18



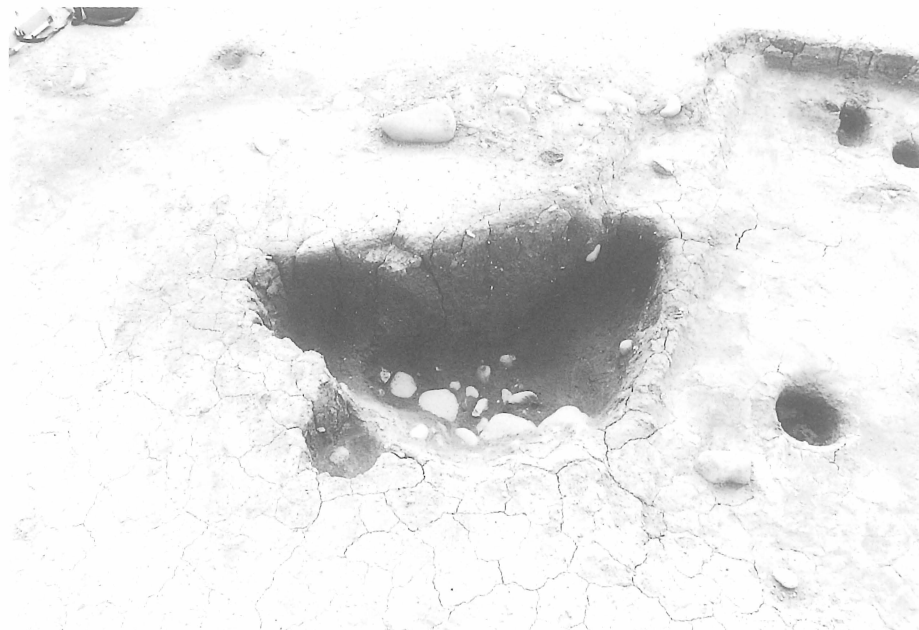
(1) SK 01



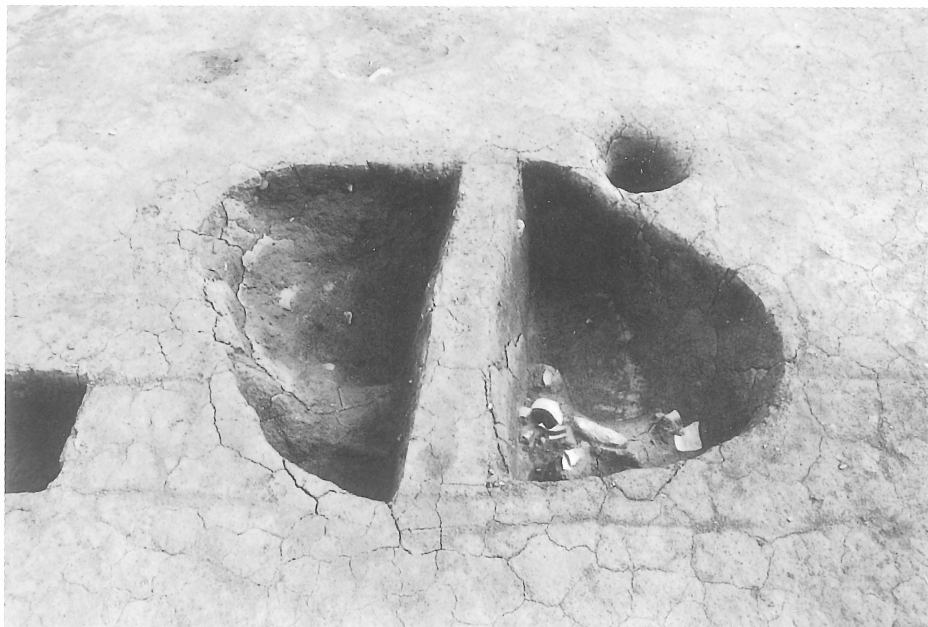
(3) SK 03



(2) SK 02



(4) SK 04



(1) SK05



(3) 全景 (東より)



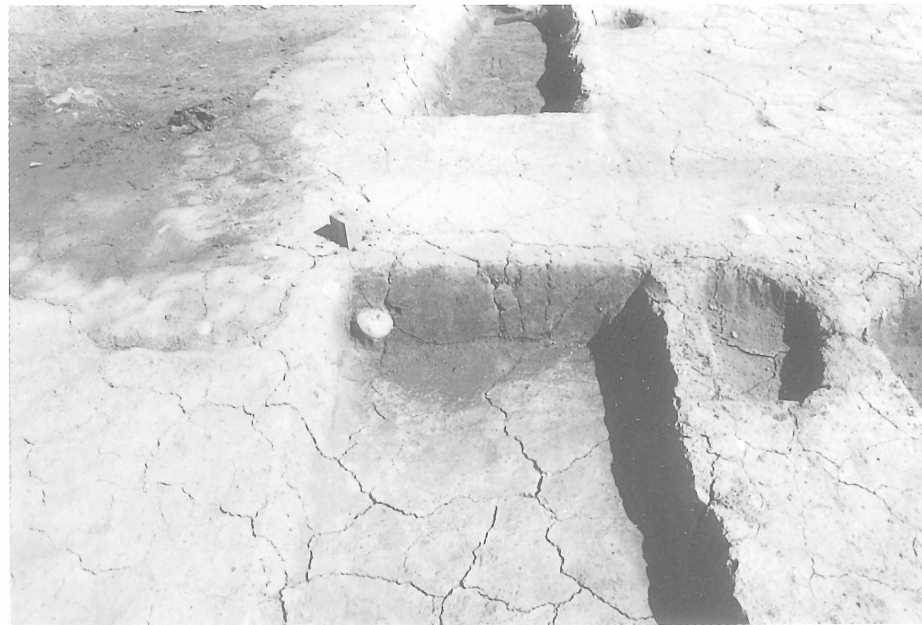
(2) SK06



(4) 全景 (西より)



(1) SD01



(3) SD03



(2) SD02



(4) SD04



(1) 榎町遺跡 2 次調査発掘前風景 (北より)



(2) 榎町遺跡 2 次調査発掘前風景 (北東より)



(1) 榎町遺跡 2次調査発掘後東西トレンチ (東より)



(2) 榎町遺跡 2次調査発掘後東西トレンチ (西より)



(1) 榎町遺跡 2次調査発掘後南北トレンチ（南より）



2) 榎町遺跡 2次調査発掘後南北トレンチ全景（北より）



(1) SB 22



(3) SB 24



(2) SB 23



(4) SB 25



(1) SB 2 6



(3) SB 2 8



(2) SB 2 7



(4) SB 2 9、SD 0 8



(1) SK07



(3) SK09



(2) SK08



(4) SX05、SD09

報告書抄録

ふりがな		えのきまちいせき						
書名		榎町遺跡（１・２次調査）						
福書名		福岡県八女市大字山内所在遺跡の調査報告書						
巻次								
シリーズ名		八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号		第 74 集						
編著者名		赤崎 敏 男						
編集機関		八女市教育委員会						
所在地		834-8585 福岡県八女市大字本町647 TEL 0943－23－1982						
発行年月日		西暦 2006年 3 月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査面積
		市町村	遺跡番号					
えのきまち 榎町遺跡 （１次調査） （２次調査）	ふくおかけん 福岡県 やめしやまうち 八女市大字山内	402109		33°12'00"	130°36'30"	2004 08 02 ～2004 11 02	約1,700㎡	葬祭場 建設
						2006 02 01 ～2006 03 20	約200㎡	駐車場 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
榎町遺跡 （１次調査）	集落跡	古墳時代	竪穴住居 掘立柱建物 土壇、溝		須恵器 土師器			
（２次調査）	集落跡	古墳時代	竪穴住居 土壇、溝		須恵器 土師器			

榎町遺跡(1・2次調査)
八女市文化財調査報告書
第74集

平成18年3月31日

発 行	八女市教育委員会 八女市大字本町647
印 刷	(資) 東兄弟印刷所 八女市祈祷院563